

令和元年度第 1 回

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日 時：令和元年 9 月 2 日（月）

午後 2 時から

場 所：中部地区会館 403 集会室

	内 容
開 会	○ 新委員の紹介
議 題	1 会長の互選について 2 平成 30 年度地方創生関連交付金活用事業評価について 3 平成 30 年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について 4 その他
閉 会	

議題 1 会長の互選について

このことについて、武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱第4条第1項の規定により、会長を委員の互選により選任する。

会 長 _____

(参考)

○武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱 - 抄 -

(会長及び副会長)

第4条 委員会に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選任する。

2 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

議題 2 平成 30 年度地方創生関連交付金活用事業評価について

1 地方創生拠点整備交付金について

別添資料 1 「平成 28 年度 地方創生拠点整備交付金（平成 30 年度実施）に係る事業実施結果報告」参照

2 地方創生推進交付金について

別添資料 2 「平成 30 年度 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告」

議題3 平成30年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

- 別添資料3「武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度末進捗状況について」参照

平成 28 年度 地方創生拠点整備交付金（平成 30 年度実施）に係る事業実施結果報告

（交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

本交付金の目的	総合戦略に位置付けられ、地域再生計画に記載された自主的・主体的で先導的な事業及びそれと一体となって整備される未来への投資につながる施設の新築、増築及び改築等の実施に要する費用に充てるため、国が地方公共団体に対して交付金を交付することにより、地方公共団体による、地方の事情を尊重しながら、地方創生に資する施設整備等の取組を進めることを目的とする。		
交付対象事業の名称	村山温泉「かたくりの湯」施設整備事業	総合戦略該当ページ	49、50
基本目標	まちの魅力を向上させ、新たな人の流れをつくる		
事業概要	村山温泉「かたくりの湯」をより魅力的な施設とし、温泉施設を活用したソフト事業との相乗効果により、域外からの来訪者の回遊性を高めて交流人口の増加、域内の消費の増加を図る。		
実施内容	リニューアルオープンに伴い設置した人工炭酸泉風呂や、改修した多目的ルームについて広報するとともに、集客に向けた自主事業等を行った。		
事業費	246,606 千円		
	指標	平成 30 年度末実績値	令和 2 年度目標値 (平成 30 年度目標値)
本事業における KPI	民間消費額（地域内ベース）※事業開始前 1,464 億円	RESAS による数値 数値不明	1,850 億円 (H30 : 1,750 億円)
	温泉施設収支額 ※事業開始前△1,470 万円	△2,637 万円	360 万円 (H30 : 100 万円)
	市外からの休日の滞在人口※事業開始前 82,000 人	RESAS による数値 データ入替により数値 変更	86,000 人 (H30 : 84,100 人)
課題	<p>昨今の温泉ブームにより近隣市にある同様の施設と競合しているため、来館者が減少している。</p> <p>また、平成 29 年度に大規模改修工事を実施しているが、当該改修箇所以外の老朽化が進行しているため、将来的に修繕に係る費用の発生が見込まれる。</p>		
令和元年度事業予定	<p>設備診断調査を実施し、併せて改修計画書を作成する。</p> <p>また、イベント風呂の実施や、レストランにおける地域食材の取入れた季節を感じられるメニューの提供により特色ある温泉施設を打ち出し、来館者数の増加を目指す。</p> <p>さらに、クレジットカード支払いの導入、休憩スペースをより快適にする等利用者の利便性の向上を図る。</p>		
外部有識者からの評価	地方創生への効果の有無	有	・ 無
意見			

●K P I の補足指標

指標	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度目標	R2 年度目標
温泉施設来場者数（市外から）	190,608 人 （115,419 人）	6,208 人 （3,873 人）	158,958 人 （102,220 人）	198,000 人 （118,800 人）	200,000 人 （120,000 人）
市外からの休日の滞在人口 ※現 RESAS データより	17,321 人	17,188 人	16,951 人	18,254 人	18,604 人

●資料

- ・「かたくりの湯」温泉入場者比較
- ・かたくりの湯 パンフレット

『かたくりの湯』温泉入場者比較

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	21,362	22,037	18,346	16,517	16,679	15,544	0	14,377	14,505	15,050	15,389	—	16,112
5月	22,756	21,968	20,347	19,357	19,505	18,181	0	14,542	15,812	17,143	16,667	—	13,967
6月	18,820	20,015	17,726	15,472	15,491	15,774	0	13,714	13,816	13,874	13,992	—	12,002
7月	23,333	21,664	18,611	17,327	17,371	18,114	0	14,831	14,336	15,328	16,424	—	12,388
8月	27,593	25,764	25,078	22,228	18,600	20,811	0	17,576	18,803	19,207	18,000	—	14,160
9月	20,845	22,328	18,336	17,136	16,040	16,591	0	14,388	11,295	16,136	15,064	—	12,585
10月	18,671	17,997	17,111	15,483	15,618	15,066	17,432	13,144	13,175	14,789	15,037	—	11,560
11月	19,285	17,888	17,706	15,427	15,070	14,206	14,522	13,442	14,396	15,637	14,234	—	11,757
12月	18,579	18,279	16,747	14,656	15,558	15,600	15,412	14,936	14,581	15,390	15,264	—	12,963
1月	24,575	24,589	21,132	20,357	20,673	18,513	17,693	17,271	17,930	18,293	18,190	—	14,964
2月	22,007	18,793	16,714	15,926	15,634	14,455	13,673	11,235	15,040	14,858	14,875	—	12,274
3月	23,695	20,118	18,451	18,100	11,928	17,424	15,773	15,522	16,508	15,889	17,472	6,208	14,226
合計	261,521	251,440	226,305	207,986	198,167	200,279	94,505	174,978	180,197	191,594	190,608	6,208	158,958
前年比		96.15%	90.00%	91.91%	95.28%	101.07%	47.19%	185.15%	102.98%	106.32%	99.49%	3.24%	2560.53%
前年増減数		▲ 10,081	▲ 25,135	▲ 18,319	▲ 9,819	2,112	▲ 105,774	80,473	5,219	11,397	▲ 986	▲ 185,386	152,750

※平成24年4～同年9月は内部改修工事により休館

※平成30年3月23日リニューアルオープン

※平成23年10月15日(土)ウォーキングイベント入館者数631人

平成 30 年度 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告

(交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI) の実績値等)

本交付金の目的	総合戦略に位置付けられた自主的・主体的で先導的な事業の実施に要する費用に充てるため、国が地方公共団体に対して交付金を交付することにより、地方公共団体による、それぞれの地域の実情に応じた地方創生に資する事業の効率的かつ効果的な実施を図ることを目的とする。		
交付対象事業の名称	武蔵村山の魅力づくり推進事業～魅力教え隊及び魅力マイスター制度の活用～	総合戦略該当ページ	44、49
基本目標	まちの魅力を向上させ、新たな人の流れをつくる		
事業概要	市の魅力を SNS 等で発信する「魅力教え隊」制度に加え、市の伝統文化の技をもつ人等を「魅力マイスター」として認定する制度を新設し、市の魅力を広く発信することで、来訪者の増加、ひいては市内経済の活性化につなげる。		
実施内容	本市ならではの体験を提供し、体験した人が情報を発信する「魅力教え隊」及び「魅力マイスター」制度を活用したモニターツアー等を実施した。 モニターツアーの実施（平成 30 年 11 月 24 日・12 月 8 日） 魅力づくり推進協議会の開催（平成 30 年 4 月 23 日・9 月 6 日） 魅力づくり推進事業交流会の開催（平成 30 年 7 月 21 日）		
事業費	2,732 千円		
	指標	平成 30 年度末実績値	令和元年度目標値 (平成 30 年度目標値)
本事業における KPI	モニターツアーの市外からの応募者数※事業開始前 103 人 (ツアー 8 回無料)	48 人 ※ツアー 2 回 (参加費 1,000 円)	80 人 (H30:70 人)
	「#MM 教え隊」市以外からの SNS 発信数 ※事業開始前 66 回	386 回	500 回 (H30:400 回)
	市外からの休日の滞在人口※事業開始前 17,284 人	16,951 人	18,254 人 (H30:17,904 人)
課題	モニターツアーに参加した方の満足度は高くなっているが、ツアー参加後に本市の情報を発信する機会はまだ多くない状況にある。		
令和元年度事業予定	今年度のモニターツアーは体験コースとし、魅力マイスターとともにみかん狩り、みかんを使ったスコーン作り、甲冑体験、うどん作り等を行う。 なお、参加者がアプリを使用してモニターツアー中に本市の魅力についての情報を発信できるような事業を実施する。		
外部有識者からの評価	地方創生への効果の有無 有 ・ 無		
意見			

●K P I の補足指標

指標	事業開始前	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度目標
情報発信アプリのダウンロード数	—	240 件	614 件	280 件

●資料

- ・チラシ
- ・コースマップ
- ・「武蔵村山の魅力づくり推進事業」報告書
- ・モニターツアーアンケート結果



東京の魅力が、ここにもあります。

武蔵村山の魅力体験 日帰りモニターツアー

各回限定
25名さま
参加料
1,000円

東京狭山茶(網代園)
東京狭山みかん
(下田みかん園)
お土産付!
(武蔵村山市提供)

村山かてうどん(昼食)



紅葉の狭山丘陵

Photo:坂下智浩マイスター



村山大島紬



モニターツアーの『謎』

謎① なぜ味にコクミがあるのか東京狭山茶?

謎② なぜ村山で大島紬?

謎③ なぜ東京なのにこんなに秘境?

謎④ なぜここに温泉が?

魅力マイスターと“ムサブラ”しながら武蔵村山の魅力の謎を解き明かします。



武蔵村山市魅力づくり推進事業
PRキャラクター「むむちゃん」

日時・行程

所要時間:約8時間(休憩含む)
利用バス:西武観光バス

- ①1回目:平成30年11月24日(土) 午前9時~午後5時
- ②2回目:平成30年12月8日(土) 午前9時~午後5時

9:00	立川駅 ツアー参加者集合
9:45	武蔵村山市役所 ツアー参加者集合 車内でモニターツアーについて説明(10分程度)
10:00	★網代園「東京狭山茶」の美味しい飲み方のお話
11:00	★村山織物協同組合 見学
12:00	青柳 村山かてうどん作りの実演と昼食
13:30	里山民家 見学
14:00	★下田みかん園 みかん狩り体験
15:00	★狭山丘陵 散策
16:00	村山温泉「かたくりの湯」〈入浴が可能(別途、入湯料がかかります)〉 ●バス2便運行予定[第1便/入浴なし=16:30、第2便/入浴あり=18:00]
17:00	立川駅 解散
18:30	

※★印は魅力マイスターのガイドがあります。
※コースは、徒歩での移動になりますので、動きやすい服装、歩きやすい靴でご参加ください。
※天候等によりコースの一部変更や予定時間が前後する場合があります。

募集要項

- 旅行代金:各コースとも1,000円
- 募集人数:各コースとも25名
- 申込締切:平成30年11月20日(火)
- 対象者:本ツアーで体験した武蔵村山の魅力を、武蔵村山市オリジナルアプリ「ムサブラ」を用いて情報発信していただける方。アプリが使えるスマホをお持ちの方。
※インストール方法は後日ご案内いたします。
※モニターの皆さまには旅行中、アンケート用紙(A4表裏1枚程度)をご記入いただきます。
- 最少催行人員:各コースとも10名
- 申込方法:①FAX申込/裏面の「モニターツアー申込み書」に必須事項をご記入の上、FAX (03-6743-7188)ください。
②西武トラベルホームページより申込/下記のQRコードまたは
- 食事条件:各コースとも昼食1回
- 添乗員:各コースとも1名同行します。



伝えたい! 誇れる武蔵村山の魅力を広めよう!

「武蔵村山の魅力教え隊」とは・・・

日常において、市のイベントや武蔵村山の良いところをSNS等を通じて写真やコメント等で発信する武蔵村山好きの人たちの集まり。市の魅力をツイッターやフェイスブックにハッシュタグ「#MM教え隊」を付けて投稿してください。また、ラインや口コミ、電話や井戸端会議でどんどん広めてください。武蔵村山の魅力を発信している人・したい人に、隊員証(隊員メンバー入り)を発行します。

くわしくは▶ 秘書広報課(042-565-1111)内線314・315まで

「武蔵村山の魅力マイスター」とは・・・

武蔵村山の魅力(自然・歴史・伝統工芸・食文化等)の知識や技を持つ匠や伝承する力を保有している方(自他推薦による団体・個人)を「武蔵村山の魅力マイスター」として称号を授与し、その榮譽を称えます。

くわしくは▶ 観光課(042-565-1111)内線224・225まで

募集

武蔵村山の魅力教え隊 & 魅力マイスター

旅行条件(要旨)

お申込みの際には旅行条件書(全文)をお受取りいただき、必ず内容をご確認の上お申込みください。

- 募集型企画旅行契約/この旅行は、西武トラベル株式会社(以下当社という)が企画・実施するもので、お客さまは当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。契約事項については、当社の旅行業約款、旅行条件書、パンフレットおよび別途お渡しする旅行日程表によります。
- 旅行契約の申込みと契約の成立/当社所定の申込書に所定事項を記入の上、旅行代金を受理したときに成立します。通信契約の場合、当社が予約の承諾の旨を通知した翌日から起算して3日以内に申込書と旅行代金を提出していただきます。この期間内に旅行代金が提出されない場合は、予約がなかったものと取扱います。旅行開始日に介助者の同行など特別な配慮を要するお客さまは、その旨をお申出ください。当社は可能な範囲内でこれに応じます。なお、そのための要した費用はお客さまのご負担となります。
- 旅行代金に含まれるもの/日程に記載の交通費、食事代、添乗員同行費用、消費税等諸税
- 旅行契約の解除・払戻し/お客さまは次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。この場合、すでに収受している旅行代金(あるいは申込金)から所定の取消料を差し引いて払戻いたします。

◇募集型企画旅行の取消料

旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	旅行契約の解除日	取消料(お一人)
	21日目にあたる日(日帰り旅行11日目)以前の解除	無料
	20日目にあたる日(日帰り旅行10日目)から8日目にあたる日まで	旅行代金の20%
	7日目にあたる日以降の解除	旅行代金の30%
	旅行開始日の前日の解除	旅行代金の40%
	旅行開始当日の解除	旅行代金の50%
	旅行開始後の解除または無連絡不参加	旅行代金の100%

- 当社による旅行契約の解除(次の場合当社は旅行契約を解除することがあります)
 - ・旅行代金を期日までに支払いただけないとき。・申込条件の不適合。
 - ・病気、団体行動への支障その他により旅行の円滑な実施が不可能なとき。
 - ・天災地変、戦乱、暴動、運送・宿泊機関などのサービス提供の中止、官公署の命令そのほかの当社の関与し得ない事由により契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となり、または不可能となるおそれが極めて大きいとき。
- 特別補償/当社はお客さまが当旅行参加中に、急激かつ偶然な外来の事故により生命、身体または手荷物に被った一定の損害について、別紙の旅行業約款特別補償規定に従いお客さままたはその法定相続人に死亡補償金、後遺障害補償金および入院見舞金を支払います。
- お客さまの責任/お客さまの故意または過失により当社が損害を被ったときは、当該お客さまは損害を賠償しなければなりません。お客さまは、当社から提供される情報を活用し、契約書面に記載された旅行者の権利・義務そのほか企画旅行計画の内容について理解するように努めなければなりません。お客さまは、旅行開始後に、契約書

面に記載された旅行サービスについて、記載内容と異なるものと認識したときは、旅行先で速やかに当社または旅行サービス提供者にその旨を申出なければなりません。

- 個人情報の取扱いについて/当社および委託旅行会社は、旅行申込みの際に提出された申込書に記載された個人情報について、お客さまとの間の連絡のために利用させていただくほか、お客さまがお申いただいた旅行において運送・宿泊機関などの提供するサービスの手配およびそれらのサービスの受領のための手続に必要な範囲内で利用させていただきます。このほか、当社および旅行取扱店では、(1)会社および会社と提携する企業の商品やサービス、キャンペーンのご案内。(2)旅行参加後のご意見やご感想の提供のお願い。(3)アンケートのお願い。(4)特典サービスの提供。(5)統計資料の作成。
- お客さまの個人情報を利用させていただくことがあります。また、当社は、当社が保有するお客さまの個人データのうち、氏名、住所、電話番号またはメールアドレスなどのお客さまへのご連絡にあたり必要となる最小限の範囲のものについて、当社グループ企業との間で、共同して利用させていただく場合があります。当社グループ企業は、それぞれの企業の営業案内、催し物内容などのご案内にこれを利用させていただきます。
- お客さまの状況によっては、当初の手配内容に含まれていない特別な配慮・措置が必要となる可能性があります。詳細は、「旅行条件書」の「申込条件」をご確認の上、特別な配慮・措置が必要となる可能性がある方につきましては、ご相談させていただきますので、旅行申込み時に必ずお申し出ください。なお、特別な配慮・措置に必要な費用はお客さまの負担となりますので、ご了承ください。
- この旅行条件は2018年9月1日を基準としております。また旅行代金は2018年9月1日現在有効なものとして公示されている運賃・適用規則を基準として算出しております。
- 当社はいかなる場合も旅行の再実施はいたしません。

◆イベント主催 武蔵村山市

◆旅行企画・実施

観光庁長官登録旅行業第139号

西武トラベル

戦略事業部

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2

一般社団法人
日本旅行業協会
JATA正会員

旅行業公正取引
協議会 会員

◆お問合せ・お申込み 西武トラベル株式会社

()内の名前は旅行業務取扱管理者です。

●戦略事業部(田島 一政) 東京都港区西新橋1-14-2

03-6743-7173

営業時間/9:30A.M.~5:30P.M.(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

ご出発の前日から起算して7営業日前までご予約を承っております。

●池袋営業所(町田 尚子) 東京都豊島区南池袋1-28-1 西武鉄道池袋駅1階改札内

03-3981-8186

営業時間/10:00A.M.~6:30P.M.(月~金)、10:00A.M.~5:30P.M.(土・日・祝日)

●高田馬場営業所(小久保 智子) 東京都新宿区高田馬場1-35-3 エミオ・スタイル・(BIG BOX高田馬場2階)

03-3205-8186

営業時間/10:00A.M.~6:30P.M.(月~金)、10:00A.M.~6:00P.M.(土・日・祝日)

総合旅行業務取扱管理者とは、お客さまの旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく左記の総合旅行業務取扱管理者にお尋ねください。

武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー申込書

西武トラベル株式会社 戦略事業部 FAX:03-6743-7188

申込日: 年 月 日

上記に記載の旅行条件に同意します。また、旅行手配及びお客さまとの連絡等のために必要な範囲内での運送、本ツアーで提携の団体・企業への個人情報の提供について同意の上、以下の旅行に申し込みます。
※個人情報保護の観点から番号の押し間違いにご注意いただき、FAX送信後は大変お手数ですが、03-6743-7173まで着信確認をお願いします。

ご希望日を選択ください	<input type="checkbox"/> 平成30年11月24日(土) <input type="checkbox"/> 平成30年12月8日(土)		集合場所を選択ください	<input type="checkbox"/> 立川駅集合 <input type="checkbox"/> 武蔵村山市役所集合	
フリガナ			年齢	性別	男・女
お名前(代表者)			歳		
住所	〒	-	携帯番号:	-	-
フリガナ			年齢	性別	男・女
お名前(同行者)			歳		
フリガナ			年齢	性別	男・女
お名前(同行者)			歳		
ツアー内容の情報発信方法	<input type="checkbox"/> ツイッター <input type="checkbox"/> フェイスブック <input type="checkbox"/> インスタグラム <input type="checkbox"/> ライン <input type="checkbox"/> その他()				
備考					

あるものは、ある。武蔵村山市

ムサブラ
MUSASHIMURAYAMA BURARUKI

武蔵村山のフード&ヒストリー体験 コースマップ

西エリア
東エリア



武蔵村山市魅力づくり推進事業
PRキャラクター「むむちゃん」



むむっ!
専用アプリを使って
あなただけのステキな
「ムサブラストーリー」を
つくってシェアしてね!

「ムサブラ」が楽しく、
魅力的になる専用アプリの
ダウンロードはアプリストア
で「ムサブラ」と検索!
QRコードはコチラ!

iPhone版
ダウンロード



Android版
ダウンロード



- ◆◆◆ 裏面に解説あり
- ヒストリーなど(解説なし)
- ★ フードなど(解説なし)

西エリア

このコースのお題

- 謎① なぜ味にコクミがあるのか
東京狭山茶?
- 謎② なぜ村山で大島紬?
- 謎③ なぜ東京なのにこんな秘境?
- 謎④ なぜここに温泉が?

西コース

網代園→→村山織物協同組合→→昼食→→
村山温泉かたくりの湯←←狭山丘陵←←里山民家

東エリア

このコースのお題

- 謎① 武蔵村山のむかしは海だった?
- 謎② 武蔵村山といえば村山うどん?
- 謎③ トンネル群のヒミツとは?
- 謎④ 東京でなぜ“みかん”なの?

東コース

武蔵村山市立歴史民俗資料館→→野山北公園→→昼食
小林農園←←横田トンネル他、トンネル群←←←



魅力マイスターと
“ムサブラ”しながら
武蔵村山の魅力と謎を
解き明かそう!っむむ

問い合わせ先:武蔵村山市 観光課 042-565-1111(内線225)

武蔵村山市の見どころ紹介

アプリ登場!マイスターの皆さん



狭山丘陵さんぽフォトグラファー
坂下 智浩氏



協働推進部長
山田 義高氏



網代園製茶所
網代 進氏



村山織物協同組合理事長
高山 金之助氏

アプリ登場!マイスターの皆さん



郷土史家
石川 伊三郎氏



小林農園
小林 卓矢氏



むさしの化石塾代表
福嶋 徹氏



村山うどんの会会長
志々田 陽介氏

◆武蔵村山市について

狭山丘陵は小さな峰が連なっていることから「群山」と呼ばれ、それが「村山」の地名に転訛したといわれています。中世の時代に狭山丘陵周辺地域村山郷を根拠としていた武士団も村山党を名乗っており、村山郷が市名の由来となっています。

江戸時代には中藤・横田・三ツ木・岸の4ヶ村が存在し、大正6(1917)年に村山村、昭和29(1954)年に村山町、昭和45(1970)年に武蔵村山市となりました。

平成30年11月現在の人口は約72,000人で、狭山丘陵の自然に恵まれた緑豊かな都心のベッドタウンとなっています。



武蔵村山市役所

西エリア

東エリア

◆市立野山北公園

武蔵村山市が管理する部分と東京都が管理する部分とに分かれています。公園エリアとしては都立野山北・六道山公園の範囲に含まれています。園内には、プールや釣り池のほか、フィールドアスレチックが体験できる冒険の森・あそびの森があります。

また、春に咲かたくりの花の群生地には大勢の人が訪れています。



◆村山温泉「かたくりの湯」

村山温泉「かたくりの湯」は、武蔵村山市の観光資源として平成14年4月にオープンした天然温泉です。

狭山丘陵南麓の地下約1500mから汲み上げた温泉とスパゾーンを備えた施設は、武蔵村山市を代表するスポットとして市内外の多くの方に親しまれています。



◆東京狭山みかん

武蔵村山市にはみかん栽培に適した狭山丘陵南側の斜面が広がっており、昭和30年代の始めから宮川早生という品種のみかん栽培が始まり、半世紀以上の歴史があります。市内のみかん園では、毎年11月上旬から下旬にかけて都内近郊から多くの家族連れなどがみかん狩りに訪れ、市場に出回らない幻のブランド「東京狭山みかん」の味を楽しんでいます。



◆武蔵村山市立歴史民俗資料館

常設展示では、武蔵村山の自然、歴史、民俗について詳しく紹介しています。丘陵(ヤマ)と台地(ハラ)で営まれてきた人々の歴史や民俗などについて詳しく知ることができます。狭山丘陵で見つかった化石の標本や軽便鉄道のコーナーも必見です。

開館時間/
9:00~17:00
休館日/
毎月第1月曜日、毎月第3水曜日、年末年始
電話/042(560)6620



◆ダイダラボッチの井戸

武蔵村山にはダイダラボッチという巨人伝説が伝えられており、市内にはダイダラボッチが歩いた足跡とされる井戸が残っています。

武蔵村山を代表するイベントとして毎年10月下旬に開催している「村山デエダラまつり」は、この伝説の巨人にちなんだ大きなネプタの山車が登場し、会場を盛り上げています。



◆里山民家

狭山丘陵周辺に実在した江戸時代の民家を新築・復元した「母屋」を中心に「蔵」、「納屋」、「作業小屋」などがあり、里山を満喫できる、楽しいイベントを実施しています。「茅葺き屋根」や「いろり」、「かまど」など、昔ながらのものがたくさんあります。

利用時間=9:00~16:30(3~9月は17:00まで)
休館日=年末年始



◆村山織物協同組合事務所

大正時代から村山大島紬の産地として広く知られ、機屋や絣板製造業者が多く営業しておりました。これらの織物業者等が同業者組合を組織し、製品の品質管理、販路の確保に努めてきました。組合事務所は、地域の織物業の全盛期であった昭和3年に建てられ、館内には織物資料室があり、見学できます。また、建物は市の指定文化財となっています。



◆村山かてうどん

武蔵村山の地域と「うどん」との関わりは古く、江戸時代末期に中藤村の陰陽師であった指田撰津が書き遺した「指田日記」の中にも度々うどんを食していたことが記されています。平成18(2006)年、市内の有志が「村山うどんの会」を結成し、「村山うどん」を発信して武蔵村山の魅力を市民の手で創造するために活動しています。村山うどんの会ホームページ<http://www.m-udon.com>



◆軽便鉄道線路跡・トンネル群

大正時代から昭和初期にかけて、狭山丘陵内に村山貯水池(多摩湖)・山口貯水池(狭山湖)を建設するために敷設された軽便鉄道(羽村・山口線)の線路跡とトンネル群(横田・赤堀・御岳・赤坂)が残っており、現在は野山北公園自転車道として整備されています。春には、自転車道を彩る桜並木が見事です。



◆眞福寺

龍華山清浄光院眞福寺は、和銅3(710)年に行基によって創建されたと伝わる真言宗豊山派の古刹です。観音堂には百体観音が安置され、狭山三十三観音の20番札所となっています。現在の本堂は安永7(1778)年の建立とされ、天保10(1839)年頃に石川文松によって描かれた格天井花鳥画は市の有形文化財に指定されています。また、山門に収められている寛永15(1638)年の鐘銘のある梵鐘も同じく市の有形文化財に指定されています。



◆庚申塔

「庚申の日、三尸虫が神様に悪事を告げ口する。これを防ぐために徹夜で番をする」という三尸説に基づく庚申信仰が江戸時代に盛んに行われていました。

人々は、村の外から村の中へ悪しき者の侵入を防ぐために青面金剛や、猿を彫った庚申塔を建てました。現在、市には約20基庚申塔があります。

写真提供: 坂下 智浩



◆禅昌寺

岸清山禅昌寺は、臨済宗の禅寺で、室町時代の正長元年(1428)恵山和尚によって開山されたと伝えられています。観音堂は文禄3年(1594)の創建と伝えられ、狭山二十四番の札所となっています。境内には、少飛の塔があります。太平洋戦争時、市内にあった東京陸軍少年飛行兵学校の多くの生徒が命を落としました。供養のため卒業生が平成2年に建立したものです。



◆東京狭山茶

埼玉県との県境、武蔵村山市から瑞穂町、青梅市、東大和市にかけての地域は、江戸時代から茶どころとして知られています。作られているのは狭山茶ですが、東京都のものは埼玉のものとは区別するため、昭和中期に『東京狭山茶』と名付けられました。茶摘みは、春と夏の2回と国内のほかの産地より少なく、その分コクと旨みのあるお茶になると言われています。



◆狭山丘陵の化石

武蔵村山市がある狭山丘陵の周辺地域は、今からおよそ200万年前は遠浅の海が広がっていたと考えられており、その証拠として狭山丘陵の斜面では、貝類やエビの仲間などの生物の化石が数多く発見されています。武蔵村山を訪れて、地球の誕生から現在まで続く悠久の歴史の息吹を感じてみてください。

写真提供: むさしの化石塾



◆長円寺

龍沢山長円寺と号する永禄11(1568)年に華山秀呑和尚によって開山された曹洞宗の寺です。

本尊は釈迦如来で、境内には江戸時代に三ツ木村を領していた旗本大河内氏の墓があり、市指定の旧跡です。毎年4月29日には、長円寺から横田・中村・馬場地区を巡る横中馬獅子舞(市指定無形民俗文化財)が行われます。



「武蔵村山の魅力づくり推進事業」

報告書

平成 31 年 3 月 31 日

西武トラベル株式会社

目 次

1. 事業概要	2
1) 目的	2
2) スケジュール	2
3) 運営体制	3
4) 武蔵村山の魅力づくり推進事業協議会	3
5) 魅力づくり推進事業交流会	4
2. 事業制作物	
1) スマートフォン向けアプリ開発	6
2) コースマップ制作	6
3) むむちゃんエコバッグ制作	7
4) モニターツアー募集チラシ制作	8
3. 事業成果	8
1) “ムサブラ” アプリ	9
2) ツアー募集期間	9
3) ツアー募集方法	9
4) ツアー参加人数	11
5) アプリ供給	11
6) コースマップ作成	11
7) むむちゃんエコバッグ制作	11
8) 協力マイスター	11
9) 利用施設	11
10) モニターツアー内容	12
11) アンケート集計	14
4. 来年度に向けた課題	14
(※) 武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアーアンケート結果	15

1. 事業概要

1) 目的

本事業では、武蔵村山市内の存在する地域資源を生かし武蔵村山市ならではの体験を提供し、体験した人が情報発信する仕組みを構築する。

市内においては、魅力マイスターのつながりを作り地域資源を生かすことに関わる人の意思を束ねること、また、子供たちを含めた市民が、武蔵村山市の伝統文化、産業、史跡等を誇りに思い、継承への興味を持ってくれることも目標となる。

さらに、市外に対しては、強みや隠れた資源等を、武蔵村山市に来なければ体験できないものとしてブランド化し、回遊者の増加を図り、購買行動への誘導、訪れてみたい、住んでみたいと思うまちとしてのイメージを持ってもらうことがねらいである。

2) スケジュール

実施日	実施内容	制作物
4月23日	第1回武蔵村山の魅力づくり推進協議会	
7月21日	魅力づくり推進事業交流会実施	
9月6日	第2回武蔵村山の魅力づくり推進協議会	
10月15日 10月22日	募集チラシ設置 西武トラベル会員向けメルマガ発行	
11月5日 11月24日	西武プリンスクラブ会員向けメルマガ発行 第1回武蔵村山の魅力体験モニターツアー実施	
12月8日	第2回武蔵村山の魅力体験モニターツアー実施	
3月	第3回推進協議会実施	

3) 運営体制

	所属	氏名
会長	網代園製茶所	網代 進
副会長	むさしの化石塾	福嶋 徹
	武蔵村山郷土の会	石川 伊三郎
	小林農園	小林 卓矢
	狭山丘陵さんぽフォトグラファー	坂下 智浩
	紅茶専門店 KANDY	藤島 孝子
	村山織物協同組合	田代 隆久
	村山うどんの会	藤本 ゆみ子
	むさし村山ストリートダンス協会	中野 むつみ
	武蔵村山市製茶組合	高山 充則
委託業者	西武トラベル株式会社	長谷川、田島
事務局	武蔵村山市協働推進部観光課	

4) 武蔵村山の魅力づくり推進協議会

下記日程にて推進協議会を2回開催した。

(1) 第1回推進事業協議会

開催日時：平成30年4月23日(月)19:00-20:00

開催場所：武蔵村山市役所4階 401大集会室

出席者：網代会長、福嶋副会長、小林委員、藤本委員、
藤島委員、中野委員

事務局：観光課長、同課係長、同課主事

報告事項(1)平成29年度事業について

報告事項(2)ムサブラアプリについて

議題(1)平成30年度武蔵村山の魅力づくり推進事業について
第2回推進協議会で最終決定する

議題(2)委託業者の選定について(案)

議題(3)次回協議会の開催日程(平成30年9月予定)

(2) 第2回推進事業協議会

開催日時：平成30年9月6日(木)19:00-20:00

開催場所：武蔵村山市役所4階 405会議室

出席者：網代会長、福嶋副会長、小林委員、藤本委員、藤島委員
中野委員

委託業者：西武トラベル(株)長谷川

事務局：観光課長、同課係長、同課主事

報告事項（１）平成 30 年度第 1 回武蔵村山の魅力づくり推進協議会会議録について

報告事項（２）委託業者の選定について

報告事項（３）魅力づくり推進事業交流会について

議題（１）平成 30 年度武蔵村山市の魅力づくり推進事業モニターツアーについて

概ね原案通りで進めていく

議題（２）武蔵村山の魅力マイスターの選定について

協議の結果、応募 10 名に対して 5 名を認定した

議題（３）次回協議会の開催日程(平成 31 年 3 月下旬予定)

（３）第 3 回推進事業協議会

開催日時：平成 31 年 3 月 26 日(火) 19：00-20：00

開催場所：武蔵村山市役所 4 階 402 会議室

出席者：網代会長、田代委員、藤本委員、高山委員、坂下委員
中野委員（代）木村

委託業者：西武トラベル(株)長谷川

事務局：観光課長、同課係長、同課主事

報告事項（１）平成 30 年度の活動報告について

報告事項（２）その他

議題（１）「武蔵村山の魅力づくり推進事業」報告書について
平成 31 年 4 月以降に市 HP にて掲載予定

議題（２）平成 31 年度武蔵村山の魅力づくり推進事業について

（１）モニターツアーについて

東、西に続き東エリアで工場・農業体験をいれて実施

（２）魅力マイスターについて

企業内マイスターを今後導入する可能性もあり

（３）”ムサブラ “アプリについて

参加者の 30%程度の情報発信率を上げる必要がある

議題（３）次回協議会の開催日程(平成 31 年 4 月下旬予定)

5) 魅力づくり推進事業交流会

下記日程にて推進事業交流会を開催した。

開催日時：平成 30 年 7 月 21 日（土）9：00-14：00

集合場所：ひまわりガーデン武蔵村山

マイスター：田代、福嶋、小林、石川、ムラッパー、下田、網代、坂下

事務局：観光課長、同課係長、同課主事

参加者：国立音楽大学生 21名

行程：ひまわりガーデン武蔵村山→トンネル群→野山北公園→村山温泉かたくりの湯（昼食）→歴史民俗資料館→ひまわりガーデン武蔵村山

武蔵村山市とは？

人口：約72,000人（平成30年6月現在）
面積：1,532平方キロメートル
位置：西は塩巻町、東は東大和市、さらに北側は奥山丘陵を挟んで埼玉県所沢市に隣接しています。
姉妹都市：長野県赤松市
由来：奥山丘陵には小さな峠が多いことから「郡山」と呼ばれ、それが「村山」の地名に転じたといわれています。中世の時代に奥山丘陵周辺地域を領地としていた武士団も村山衆を名乗り、これが市名の由来となっています。

ひまわりガーデン武蔵村山

都賀村山丘陵の緑育事業に伴い開いた用地を東京都から借り受け、平成24年から開園しています。
毎年5月の週末には、小・中学生を中心とする数多くのボランティアの方々が参加しており、武蔵村山市の新たな観光スポットを市民協働で作っています。
「ひまわりガーデン武蔵村山」は、都内最大級のひまわり畑として、市内外から毎年2万人を超える来園者があり、武蔵村山市の夏の象徴的スポットとなっております。

野山北公園

武蔵村山市が管理する部分と東京都が管理する部分に分かれています。公園エリアとしては都立野山北公園の範囲に含まれています。園内には、プールや釣り池のほか、フィールドアスレチックが体験できる冒険の森、あそびの森があります。
また、華に映かたくりの湯の野山温泉には入浴の人が訪れています。

村山温泉「かたくりの湯」

村山温泉「かたくりの湯」は、武蔵村山市の観光資源として平成14年4月にオープンした天然温泉です。
奥山丘陵麓の地下約1,500mから湧き出たミネラル豊富な天然温泉を地熱採掘し、武蔵村山市を代表するスポットとして市内外の多くの方に親しまれています。

平成30年武蔵村山の魅力づくり推進事業交流会資料

魅力マイスターとむらやまをぶら〜り

平成30年
7月21日(土)

2018年の夏、知る！見る！体験する！そして、交流しよう！

マイスターの
お時間は10分程度

9:00 ひまわりガーデン武蔵村山
1. 開会あいさつ
2. 出発
・ムラヤマアプリ
・マイスター
・ムラッパー
・ひまわりガーデン武蔵村山

10:00 軽便鉄道、トンネル群
石川マイスターによる軽便鉄道のお話。

11:20 野山北公園
福嶋マイスターによる奥山丘陵のお話。

12:00 村山温泉「かたくりの湯」
・村山温泉「かたくりの湯」を堪能！
・マイスターと観光客の交流。

13:00 武蔵村山市歴史民俗資料館
資料館職員の方からの館内のお話。

解散

武蔵村山の魅力を皆様にお伝えしたいので、ムラヤマアプリをダウンロードしておきましょう！詳しくは裏紙をご覧ください！

アプリをダウンロード

iPhone用 android用



2. 事業制作物

(1) スマートフォン向けアプリの開発（カシオ計算機に委託）

魅力マイスターの案内でブラ歩きしながら武蔵村山市の伝統文化・グルメ・産業史跡等を紹介したスマートフォン向けアプリで開発し、撮影した写真をその場でSNSにアップできるようにした。

平成29年度作成の東エリアに平成30年度作成の西エリアを追加した。



(2) コースマップ制作

モニターツアーで巡る地点をマップにして300部制作。ツアー終了後であっても、マップを活用し各所のみどころを散策できるように平成29年度東エリアコースに平成30年度に西コースを加えたコースは、情報館「えのき」をはじめとした各公共施設に配置している。



(4) モニターツアー募集チラシ制作

モニターツアー募集のためチラシを2,000部制作した。

<表面>

東京の魅力が、ここにもあります。
武蔵村山の魅力体験 日帰りモニターツアー
 東京狭山茶(御代園) 東京狭山みかん(下田みかん園) お土産付! (武蔵村山市産)

各回限定 25名さま 参加料 1,000円

謎① なぜ味にコクミがあるのか東京狭山茶?
 謎② なぜ村中で大島柚?
 謎③ なぜ東京なのにこんなに秘境?
 謎④ なぜここに温泉が?

モニターツアーの「謎」

日時・行程
 ①1回目:平成30年11月24日(土) 午前9時~午後5時
 ②2回目:平成30年12月8日(土) 午前9時~午後5時

募集要項
 ●旅行代金:各コースとも1,000円
 ●募集人数:各コースとも25名
 ●申込締切:平成30年11月20日(火)
 ●対象者:本ツアーで体験した武蔵村山の魅力を、武蔵村山市オリジナルアプリ「ムサブラ」を用いて情報発信していただける方、アプリが使えるスマホをお持ちの方。
 ※インストール方法は後日ご案内いたします。
 ※モニターの皆さまには旅行中、アンケート用紙(A4縦型1枚程度)をご記入いただきます。
 ●最少参加人数:各コースとも10名
 ●申込方法:①FAX申込/②裏面の「モニターツアー申込み書」に必須事項をご記入の上、FAX(03-6743-7188)ください。
 ③西武トラベルホームページより申込
 下記のQRコードまたは西武トラベル(検索)より申込ください。
 ●応募条件:各コースとも募集1回
 ●募集賞:各コースとも1名様行きます。

主催:武蔵村山市

<裏面>

伝えたい! 語れる武蔵村山の魅力を広めよう!

「武蔵村山の魅力体験」とは...
 日々において、西のイベントや武蔵村山の良いところをSNS等を通じて賞やコメント等で発信する武蔵村山好きの人たちの集まり。魅力をツイッターやフェイスブックにハッシュタグ「#MM」を添えて発信してください。また、ラインや口説、電話や共同LINEなどでも広めてください。武蔵村山の魅力を発信して一人一人に、発信員メンバー入りをお願いします。

「武蔵村山の魅力マイスター」とは... **募集**
 武蔵村山の魅力(自然・歴史・伝統工芸・食文化等)の知識や経験を広げたい、あるいはその魅力を発信したい方(自由応募)による「体験人」が「武蔵村山の魅力マイスター」として活動を推進し、その活動を新えます。

旅行条件(要旨)
 申込済みの場合は旅行条件書(全文)をお送りいたします。必ずお読みください。申し込みはできません。

申込条件(要旨)
 申込条件(要旨)は旅行条件書(全文)をお送りいたします。必ずお読みください。申し込みはできません。

◆イベント主催 武蔵村山市

◆旅行企画・実施 西武トラベル

◆お問い合わせ・お申込み 西武トラベル株式会社

武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー申込書
 西武トラベル株式会社 観光事業部 FAX:03-6743-7188

申込日: 年 月 日

募集希望を選択ください
 平成30年11月24日(土) 平成30年12月8日(土) 集合場所を選択ください 立川駅集合 武蔵村山市夜所集合

お名前(ご記入) 年齢 性別 男・女
 住所 年齢 性別 男・女
 電話番号: - - 携帯番号: - -
 ツアー内容の情報提供方法 ツイッター フェイスブック インスタグラム ライン その他()

3. 事業成果

(1) 「ムサブラ “アプリ”

合計 757 ダウンロード

「武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー」

実施日

① 平成 30 年 11 月 24 日 (土)

② 平成 30 年 12 月 8 日 (土)

(2) ツアー募集期間

平成 30 年 10 月 15 日 (月) - 12 月 6 日 (木)

(3) ツアー募集方法

①チラシによる募集

設置場所及び部数

武蔵村山市

500 部

・「情報館」えのき

30 部

・市政情報コーナー

20 部

・市役所2階窓口	30部
・多摩観光情報センター	30部
・下田園	20部
・小林農園	20部
・村山うどんの会会員店	100部
・総合体育館	20部
・歴史民俗資料館	20部
・歴史民俗資料館分館	20部
・保険相談センター	20部
・お伊勢の森分室	20部
・緑が丘出張所	20部
・福祉会館	20部
・協力マイスター	40部

計 430 部

西武トラベル池袋営業所	200部
西武トラベル高田馬場営業所	200部
西武トラベル新橋本社	100部
西武園遊園地	100部
BOGBOX東大和	100部
としまえん庭の湯	100部
新横浜スケートセンター	100部
東伏見スケートセンター	100部
高輪テニススクール	100部
高輪ゴルフスクール	100部
品川プリンスホテル	100部
西武フィットネスクラブ所沢	100部
掬水亭	100部

計 1,500 部

合計 2,000 部

② 西武プリンスクラブ会員向けメルマガ(全国)

11月5日(日)発行 308,000部

③ 西武トラベルメルマガ(全国)

10月22日(月)発行 3,580部

④ 西武トラベルホームページにて告知

⑤ 武蔵村山市ホームページにて告知、およびチラシ設置、SNSでの告知

(4) ツアー参加人数（募集定員各 25 名）

出発日	参加人数	当日キャンセル
11月24日(土)	25人	0人
12月8日(土)	25人	0人

(5) アプリ供給

平成30年11月20日（火）～平成31年3月31日（日）利用可

ユーザー数	機種		合計
	Android	ios	
日本	361人	430人	791人
外国	31人	32人	63人
合計	392人	462人	854人

(6) ツアーコースマップ制作

11月19日（月）納品 A3 4C X 4C 300部0

(7) むむちゃんエコバッグ制作

11月20日（火）納品 400部

(8) 協力マイスター

- ① 網代 進（お茶マイスター）
- ② 高山 金之助（大島紬マイスター）
- ③ 藤本 ゆみ子（うどんマイスター）
- ④ 荻野 訓一（うどんマイスター）
- ⑤ 比留間 良幸（うどんマイスター）
- ⑥ 下田 智道（東京狭山みかんマイスター）
- ⑦ 坂下 智浩（さんぽマイスター）
- ⑧ 山田 義高（協働推進部長）

(9) 利用施設

- A 網代園
- B 村山織物協同組合事務所
- C 青柳（村山うどん店）

- D 下田みかん園
- E かたくりの湯

(10) モニターツアー内容

魅力マイスターの案内で武蔵村山の4つの謎と魅力を解きながら、武蔵村山をぶらりと歩く“ムサブラ”しながらモニターツアーを実施した。

「謎①」なぜ味にコクミがあるのか東京狭山茶？

「東京狭山茶」とは、狭山茶の中なかでも東京都で生産されたものを呼んでいます。網代マイスターは、お茶の味が濃く、風味が豊かなことを「コクミ」と表現しているそうです。京都、静岡に比べて寒い気候と乾いた土壌で育つ狭山茶の木は、新芽も葉肉が厚くなります。さらにほかの地方のお茶は年3～4回ほど新芽を摘ますが、狭山茶は2回にすることでよりしっかりと茶葉を育てることができるそうです。また、網代マイスターより、実際のお茶の木を見ながら東京狭山茶についての説明を受けたのち、お茶本来のうまみの楽しみ方や本来の入れ方の説明を受け、東京狭山茶を試飲しました。参加者には記念に東京狭山茶をプレゼントしました。



「謎②」なぜ村山で大島紬？

村山大島紬は江戸時代の中期に創り出されたと言われています。綿織物と絹織物が合流し、後に群馬県伊勢崎より絰板（カスリイタ）を使った染めの技法を取り入れ、緻密な柄が作製可能となりました。大正時代中期に奄美の大島紬が流行しており、同等の生地と柄が造れることから「村山大島紬」と名乗るようになったそうです。村山大島紬は経済産業大臣指定伝統工芸品の第1号として指定を受けました。村山織物協同組合事務所では、高山理事長より村山大島紬の説明を受けたのち、資料館を見学しました。



「謎③」なぜ東京なのにこんなに秘境？

江戸時代から変わらぬ姿の山（狭山丘陵）が残っています。なぜ、このような秘境が残されたのでしょうか。狭山丘陵の西側（武蔵村山市）は東側と比べてヤマ（丘陵）が深く、人が住むよりヤマとしての地でした。また、大正時代に、東京の水がめとして、村山貯水池、山口貯水池が造られたことで、山林が保全されました。このような出来事などが重なることで、宅地から一步山に入ると、江戸時代と変わらぬ姿の秘境が残っているそうです。今回は坂下マイスターの案内で狭山丘陵ぶらり旅をしました。山中の庚申塔や狭山丘陵の紅葉など、坂下マイスターに説明をしていただき、また、風景写真の撮り方など、臨時写真講座おこないました。



「謎④」なぜここに温泉が？

協働推進部山田部長から武蔵村山に温泉がある理由の説明を受けました。温泉というと、火山のそばに湧く温泉をイメージすると思います。なぜ、火山があるわけでない武蔵村山に温泉が湧くのでしょうか？狭山丘陵の谷部は

岩盤が地下深くにあり、温泉が湧きだす可能性が高いということで平成 8 年に掘削をはじめることとなりました。村山温泉は地下 1500m の地熱を利用し、成分にメタほう酸を含む天然温泉で平成 14 年に村山温泉として「かたくりの湯」がオープンしました。



(11) アンケート結果 (※)

P15 参照

4. 来年度に向けた課題

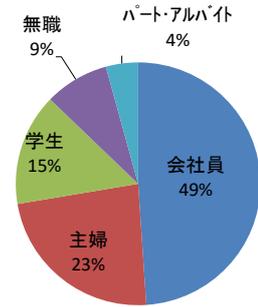
- ①今回は当初予定していたみかん園では、みかんの収穫時期が想定より早く終わってしまい、2 回目のツアーで他の農園での体験となった。来年度もみかん狩りをツアーに入れる場合はみかん狩りを調整できるようにしておく必要がある。
- ②昨年度に引き続き有料(一人当たり 1,000 円)とした結果キャンセル率の低下を防ぐことができたため、来年度以降も有料化を継続すべきであると考えます。
- ③ツアー終了後、“ムサブラ” アプリを用いて武蔵村山の魅力発信をした方がすくなくため、今後はツアー募集の段階で情報発信についての条件、ツアー内で発信のする時間を設けるなどの工夫が必要である。
- ④ツアー内容が盛りだくさんとなり行程にゆとりがなかった。行程に余裕を持たせ体験内容と時間帯を考える必要がある。

武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー アンケート結果

ツアー参加者数50名(11月24日(土)25名、11月8日(土)25名)
アンケート回答人数47名様(11月24日(土)23名、12月8日(土)24名)

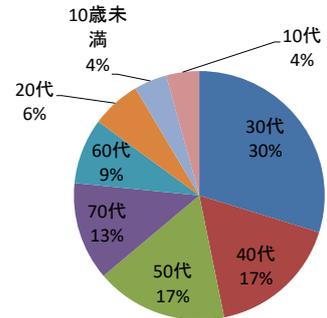
職業	11月24日	12月8日	合計
1 会社員	9	14	23
2 主婦	8	3	11
3 学生	5	2	7
4 無職	1	3	4
5 パート・アルバイト	0	2	2
6 公務員	0	0	0
7 自営業	0	0	0
8 その他	0	0	0
合計	23	24	47

⇒ツアーの参加者は会社員及び主婦で7割を占めている。



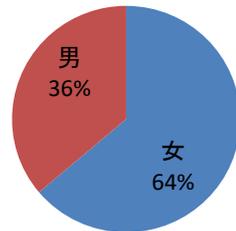
年齢	11月24日	12月8日	合計
1 30代	7	7	14
2 40代	2	6	8
3 50代	3	5	8
4 70代	5	1	6
5 60代	3	1	4
6 20代	2	1	3
7 10歳未満	1	1	2
8 10代	0	2	2
9 80代以上	0	0	0
合計	23	24	47

⇒30代から50代の年齢層が多く、子育て世代が多い。

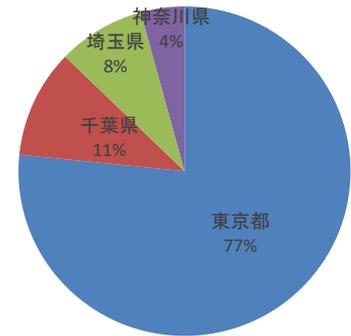


性別	11月24日	12月8日	合計
1 女	15	15	30
2 男	8	9	17
合計	23	24	47

⇒ツアーの参加者は女性が多い傾向がある。

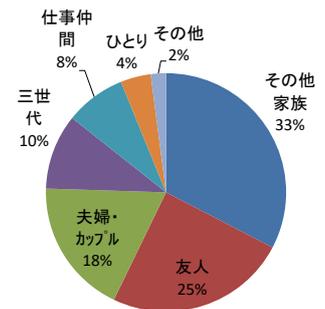


居住地	11月24日	12月8日	合計
1 東京都大田区	5	1	6
2 東京都八王子市	0	4	4
3 東京都西東京市	0	4	4
4 東京都稲城市	3	0	3
5 東京都日野市	1	2	3
6 東京都町田市	0	3	3
7 東京都武蔵村山市	1	1	2
8 東京都立川市	2	0	2
9 東京都小平市	2	0	2
10 東京都(市町村は未記入)	0	2	2
11 千葉県市川市	1	1	2
12 埼玉県入間市	2	0	2
13 神奈川県横浜市	1	1	2
14 千葉県市原市	0	2	2
15 東京都あきる野市	1	0	1
16 東京都三鷹市	1	0	1
17 東京都国立市	1	0	1
18 東京都板橋区	1	0	1
19 東京都江東区	0	1	1
20 千葉県船橋市	0	1	1
21 埼玉県川口市	0	1	1
22 埼玉県三芳町	1	0	1
合計	23	24	47



⇒ツアーの参加者は多摩地区の参加者が多いが、23区内や関東地方の方にも多く参加していただいた。

同行者	11月24日	12月8日	合計
1 その他家族	1	15	16
2 友人	8	4	12
3 夫婦・カップル	6	3	9
4 三世代	5	0	5
5 仕事仲間	3	1	4
6 ひとり	1	1	2
7 その他	0	1	1
合計	24	25	49



※1名、複数回答あり

7. その他詳細

夫婦と母

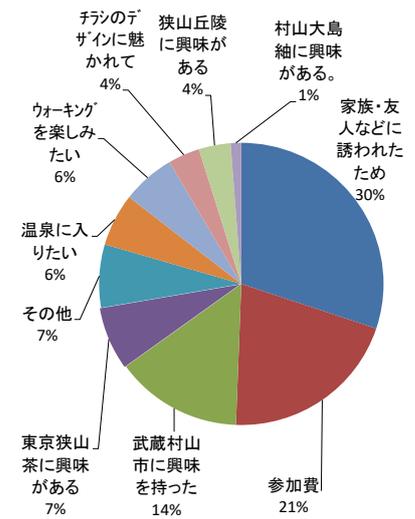
⇒家族や夫婦など複数での参加が多かった。

1	参加の理由(あてはまるもの全て)	11月24日	12月8日	合計
1	家族・友人などに誘われたため	14	11	25
2	参加費	7	10	17
3	武蔵村山市に興味を持った	8	4	12
4	東京狭山茶に興味がある	5	1	6
5	その他	0	6	6
6	温泉に入りたい	1	4	5
7	ウォーキングを楽しみたい	2	3	5
8	チラシのデザインに魅かれて	1	2	3
9	狭山丘陵に興味がある	1	2	3
10	村山大島紬に興味がある。	1	0	1
	合計	40	43	83

10. その他の具体的な理由

- ・いつもイオンかうどん屋しか行かないので他の所も知りたかったから
- ・うどん満月でチラシを見かけて。みかん狩りがキラワードでした。
- ・糶うどんとみかんに惹かれました
- ・みかん狩り、お土産付き
- ・市報を見て今年も参加したいと思った

⇒参加理由として口コミや参加費の安さが多いが、本市の魅力に興味を持ち参加された人も多くいた。



2	このモニターツアーを知ったきっかけ(あてはまるもの全て)	11月24日	12月8日	合計
1	家族・友人・知人からの紹介	11	6	17
2	ツアーチラシ(どこでもらいましたか?)	5	10	15
3	西武トラベルホームページ	6	4	10
4	武蔵村山市ホームページ	3	2	5
5	その他	1	1	2
6	無記入	0	2	2
7	ブログ・フェイスブック等	0	0	0
	合計	26	25	51

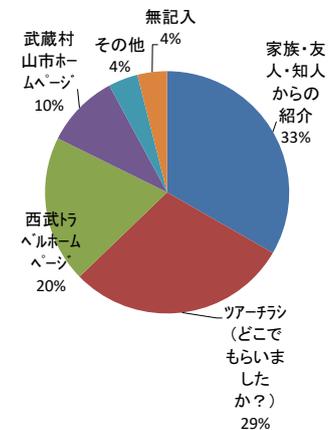
2-4 ツアーチラシはどこでもらいましたか?

- ・うどん満月
- ・西武トラベル
- ・デエダラ祭り

2-6 その他の具体的な理由

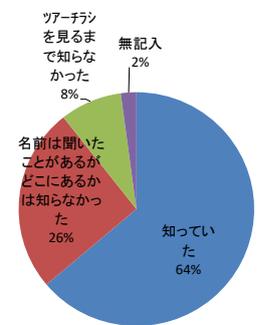
- ・市報

⇒家族・友人・知人からの紹介を除くとツアーチラシが一番多く、チラシは効果的な手段であることが分かる。



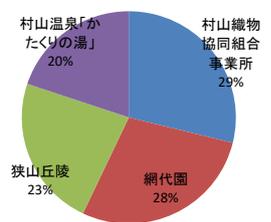
3	武蔵村山市をご存じでしたか?	11月24日	12月8日	合計
1	知っていた	14	16	30
2	名前は聞いたことがあるがどこにあるかは知らなかった	8	4	12
3	ツアーチラシを見るまで知らなかった	1	3	4
4	無記入	0	1	1
	合計	23	24	47

⇒本市を知っていて、参加された人が多くいたことが分かる。

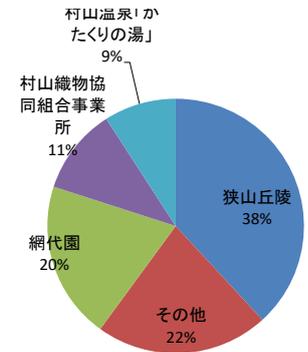


4	今回のツアーの中で初めて訪れた場所について(あてはまるもの全て)	11月24日	12月8日	合計
1	村山織物協同組合事業所	21	24	45
2	網代園	22	22	44
3	狭山丘陵	19	17	36
4	村山温泉「かたくりの湯」	19	12	31
	合計	81	75	156

⇒参加者のほとんどが4か所とも初めて訪れていた。



5	このモニターツアーで一番印象に残った場所はどこですか？※複数回答有。	11月24日	12月8日	合計
1	狭山丘陵	13	8	21
2	その他	5	7	12
3	網代園	5	6	11
4	村山織物協同組合事業所	3	3	6
5	村山温泉「かたくりの湯」	3	2	5
合計		29	26	55



選んだ理由 (5は、その他の場所・理由)

- 1: 豊かな自然が魅力的(東京とは思えない)
- 1: 大自然の中にいるようで、歩きやすかったから
- 1: 撮影に使えると思ったから
- 1: 丘陵の中を歩いたのは初めてだったので
- 1: 山を散策したので
- 1: 古民家とか、みかん狩りが楽しかった。ハイキングも楽しかった。
- 1: みかん美味しかった。大変なお仕事ごろうさまです。
- 1: 森の中をたくさん歩いてとても楽しかった
- 1: 景色(紅葉)が綺麗だったから
- 1: みかん(みかんが取れることを知らなかった)
- 1・5: 昔の遊びがあり、楽しかった
- 1・5: 1日の疲れを癒やしてくれた
- 2: みかん園、都下にこのような所があることに驚いた
- 2: 村山うどん、美味しかった。他のお店のうどんもまた食べに来てみたい。
- 2: 下田農園、みかん狩りが楽しかった&景色が良かった
- 2: 下田農園、みかん狩りは出来なかったが、おみやげのみかんをたくさんいただき、嬉しかった。説明がわかりやすかった。
- 3: お茶が好きなので(日頃お茶しか飲まないから)
- 3: お茶が美味しかった
- 3: お茶の入れ方を教えていただけたので
- 3: お茶を東京で作っていることを初めて知ったから
- 3: ここのお茶がこれほど有名だとは思わなかったから
- 4: 紬の技術を知ることが出来た事、布の成り立ち。生地に模様を染めるものかと思っていたら糸に出来上がりの柄を染め、組み上げると知ったときの驚きがあったから
- 4: 東京に大島紬があるイメージがなかったので
- 4: こんな織物があったことは知らなかったが、とても素晴らしいから
- 5: 温泉が好きだから

⇒ツアーの参加者は、自然や産業文化などと言った体験型ツアーに興味を持っている。

6	武蔵村山市にまた訪れたいと思いますか？	11月24日	12月8日	合計
1	きっかけがあれば訪れたい	11	14	25
2	ぜひ訪れたい	11	9	20
3	あまり訪れたいとは思わない	1	0	1
4	無記入	0	1	1
合計		23	24	47

1〜3を選んだ理由

- ・1: ツアーが良かったから
- ・1: うどん(おいしかった。また食べに来たい)
- ・1: 自然にたくさん触れ合えてまた来たいと思ったから
- ・1: 日本中を旅するため、新緑の季節に来たい
- ・1: 色々楽しめる所はあるけど、ちょっと遠い
- ・1: まだ訪れていない場所があったら行ってみたい
- ・1: 交通手段
- ・1: 近いし、ゆっくりできるから
- ・2: 他の友人とも来たいと思ったから
- ・2: イオンあるから
- ・2: 実家があるから
- ・2: 自然が素晴らしい
- ・2: みかん(おいしかったから。みかん狩りをしたい。)
- ・2: 楽しかったから
- ・2: 都心から近く、自然が豊かだから
- ・2: アスレチック&村山温泉
- ・2: 「東京の狭山茶」というブランドに興味。美味しかったのでまた買いたい
- ・2: 行ったことのないうどん屋さんや、子供とアスレチックに行きたい
- ・3: 魅力の問題

⇒参加者の95%以上の方が訪れたいと回答しており、本ツアーで魅力をPR出来たと言える。

7	「ムサブラ」アプリを用いて情報の発信をしましたか？	11月24日	12月8日	合計
1	発信しない	13	13	26
2	発信した	7	7	14
3	無記入	3	4	7
合計		23	24	47

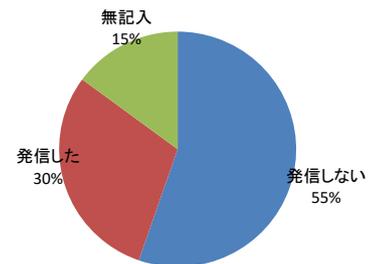
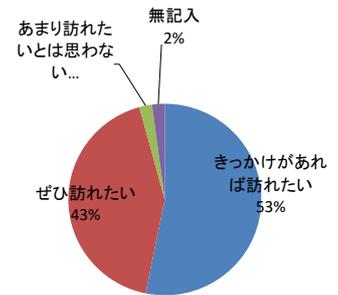
7-1. 発信しない理由

- ・難しい
- ・やり方があまりよく分からなかった(アプリが使いにくい)
- ・ツアー参加中に出来なかったが、ぜひ今日撮ったいい写真を発信したいと思った
- ・もってない
- ・スマートフォンの充電切れ
- ・これからやります(予定)
- ・アプリはしない
- ・SNSアカウントをもっていない
- ・自宅に戻ってから発信します

7-2. 発信手段

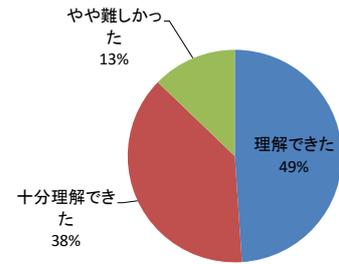
- ・インスタグラム
- ・携帯(スマートフォン)
- ・ツイッター
- ・SNS
- ・写真

⇒ツアー終了後、発信している方は約30%しかおらず、今後は発信の仕方を工夫するなど参加者が発信しやすい仕掛けづくりが必要がある。



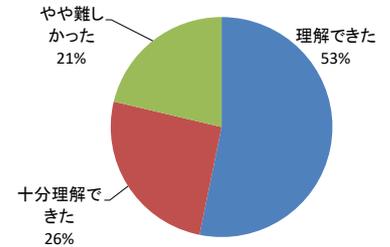
8	4つのテーマはいかがでしたか？<1>なぜ味にコクミがあるのか東京狭山茶？	11月24日	12月8日	合計
1	理解できた	9	14	23
2	十分理解できた	11	7	18
3	やや難しかった	3	3	6
4	理解できなかった	0	0	0
合計		23	24	47

⇒ほとんどの人が理解できた。



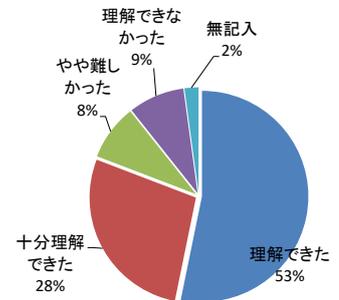
8	4つのテーマはいかがでしたか？<2>なぜ村山で大島紬？	11月24日	12月8日	合計
1	理解できた	9	16	25
2	十分理解できた	8	4	12
3	やや難しかった	6	4	10
4	理解できなかった	0	0	0
合計		23	24	47

⇒多くの方に理解していただいたが、やや難しさもあったと言える。



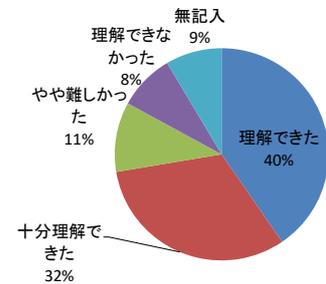
8	4つのテーマはいかがでしたか？<3>なぜ東京なのにこんなに秘境？	11月24日	12月8日	合計
1	理解できた	10	15	25
2	十分理解できた	8	5	13
3	やや難しかった	1	3	4
4	理解できなかった	3	1	4
5	無記入	1	0	1
合計		23	24	47

⇒多くの方に理解していただいたが、やや難しさもあったと言える。



8	4つのテーマはいかがでしたか？<4>なぜここに温泉が？	11月24日	12月8日	合計
1	理解できた	6	13	19
2	十分理解できた	6	9	15
3	やや難しかった	4	1	5
4	理解できなかった	4	0	4
5	無記入	3	1	4
合計		23	24	47

⇒多くの方に理解していただいたが、やや難しさもあったと言える。



9 武蔵村山の魅力は何だと思えますか？どんなところが魅力かお聞かせください。

- ・自然(豊かなところ・癒やされる・美しい)
- ・景色がよく、季節をすぐに見て感じられてとても素敵
- ・近い
- ・電車や道路が騒がしくないところ
- ・立川に近いところ
- ・市民が武蔵村山を愛しているのが伝わった。そんな温かい人情あふれるところが一番の魅力
- ・武蔵村山市は、家族や友人が居住しているので度々来ています
- ・狭山丘陵があり、緑が多い。今度は六道山公園に来てみたい
- ・難しい質問。答えが見つからない
- ・都心から近い田舎(東京の里山)
- ・お茶、うどん、みかん 全て良かった
- ・自然豊かの中で育まれた地域独自の産業・産物(今回の東京狭山茶・村山大島紬・古民家)
- ・空気がきれい
- ・のんびり、ゆったり
- ・昔ながらの風景・環境に触れられる
- ・東京のジャングル,我境をアピールしてみてもは
- ・うどん(おいしかった)
- ・みかん狩りやハイキング(散歩)が気軽にできるところ
- ・東京なのにお茶やみかんがとれる
- ・観光地が多い
- ・伝統文化が色濃く、興味深いところ
- ・人のあたたかさ
- ・まだ知らない事が沢山！夏のデエダラ祭りも行きたい。
- ・うどん、みかん、織物などの名物がたくさんある
- ・サイクイングによい

10 ツアー全体の感想・ご意見をお聞かせください。

- ・安くて良い。土壌も良い。添乗員が親切
- ・1000円で内容が豊富。色々な人が説明してくれてよかった。お土産もありがとうございます。
添乗員さんの説明がわかりやすく、面白かった。ただ、「少しだけ歩きます」の少しがなかなかの距離だった。
- ・謎解きが難しかったが、詳しく丁寧にみなさんが説明してくれたので、武蔵村山の魅力を感じることができ、とても良かった。
- ・武蔵村山の素敵なお土産をたくさん知ることができて嬉しかった
- ・一緒にツアーに来た人たちとも楽しく話したり、歩いたりして良い体験でした
- ・1日の中でいろんな場所に行けてとても良かったし、お土産もいただけて嬉しかった
- ・1日楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・生まれ育った地でありながらも知らないことが多く、楽しみながら学ぶことが出来ました。
また同じような魅力体験ツアーがあれば参加したい
- ・とても楽しかった
- ・また参加したい
- ・初めて参加しましたが、ツアーの内容も濃く、参加費も安いので満足です。
村山うどんも時々買って食べています。
- ・説明がわかりやすくて理解できた。村山うどんもとても美味しかった
- ・近くに住んでいるのに出かけていくチャンスが少ない。イオンモールには年1回くらい、立川からバスで行きます。
- ・ツアーは楽しめました。ただ、狭山丘陵の散歩は15時から遅すぎる。午前中か、午後一番が理想的。
- ・謎の答えが印象に残らず忘れてしまった
- ・ツアー代金が魅力的
- ・地域が一丸となって「観光地として良いところ」にしようという熱意が感じられた。
- ・通過点でしかなかったが、目的地にしたい

11	アンケート回収	11月24日	12月8日	合計
1	回収	23	24	47
2	未提出	2	1	3
合計		25	25	50

⇒ほとんどの方からアンケートの回答が得られた。(幼児を除く)



武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度末進捗状況について

【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たな人の流れをつくる】

項目	進捗状況
市外からの平日の滞在人口	×
市外からの休日の滞在人口	×

※重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

◎：目標値達成

○：平成26年度現況値を上回っている

△：現況値から横ばい

×：現況値を下回っている

—：数値が判明していない

具体的施策（7施策30事業）の進捗状況（平成30年度末）

具体的施策	進捗状況	事業の状況（指標数）				
		◎	○	△	×	—
戦略的な情報発信	◎	4	0	0	0	0
創業を希望している市民への支援	○	1	1	0	1	0
産業の振興と雇用の促進	◎◎	2	1	3	1	0
時代のニーズに対応する農業の創造	◎	1	1	1	0	0
個性豊かな観光施策の推進	△	3	1	6	3	0
利便性の高い公共交通網の形成	○	0	2	0	0	0
にぎわいと活力のあるまちづくり	○	0	1	2	0	0
合計		11	7	12	5	0

基本目標1の総括

- ・交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- ・滞在人口については、地域経済分析システム（RESAS）の平成30年1月～12月における午後2時時点の市外からの滞在人口の平均値を出している。平成30年について、平日においては午前4時、午前10時、午後2時及び午後8時全ての時点の数値が平成26年から増加している。また、休日においては午前4時、午前10時、午後2時及び午後8時の各時点の数値を合計して比較すると、平成26年から増加している。
- ・戦略的な情報発信については、掲載事業の全てにおいて現況値を上回る数値となった。
- ・個性豊かな観光施策の推進については、平成29年度に村山温泉「かたくりの湯」の大規模改修を行ったことから、施設の入場者数等に影響しており、平成26年度の現況値を下回る結果が多かったものと思われる。

補足資料

【資料3-2】武蔵村山市の滞在人口（RESAS）

【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

項目	進捗状況
合計特殊出生率	—
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てられるまちだと思ふ」人の割合	◎

※重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

◎：目標値達成

○：平成 26 年度現況値を上回っている

△：現況値から横ばい

×：現況値を下回っている

—：数値が判明していない

具体的施策（5 施策 25 事業）の進捗状況（平成 30 年度末）

具体的施策	進捗状況	事業の状況（指標数）				
		◎	○	△	×	—
婚活への支援	×	0	0	0	1	0
子どもとお出かけしやすいまちづくり	◎◎	2	3	0	0	0
子育て、子育てと子ども家庭の支援	×◎○—	6	4	1	0	1
子どもの知力・体力の向上	◎	1	0	1	2	0
教育環境の整備	×	2	1	0	1	0
	合計	11	8	2	4	1

基本目標 2 の総括

- ・年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- ・基本目標の KPI の数値が現時点で判明していないが、平成 30 年の出生者数は 551 人であり前年と比較すると 57 人の増加となっている。（住民基本台帳）
- ・具体的施策のうち、1 施策が平成 30 年度末をもって廃止している。
- ・子どもの知力・体力の向上における主な事業のうち、1 事業が平成 30 年度末をもって廃止している。

補足資料

【資料 3-3】出生者数・死亡者数 経年データ

【基本目標 3 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する】

項目	進捗状況
居住年数 20 年以上の人の割合	×
20 歳代の転出者割合	×

※重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

◎：目標値達成

○：平成 26 年度現況値を上回っている

△：現況値から横ばい

×：現況値を下回っている

—：数値が判明していない

具体的施策（4 施策 18 事業）の進捗状況（平成 30 年度末）

具体的施策	進捗状況	事業の状況（指標数）				
		◎	○	△	×	—
生活利便性の高いまちづくり	×	0	3	0	0	0
安心して暮らせるまちづくり	◎○	3	2	2	0	0
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	—×	0	2	1	2	1
住み続けられるまちづくり	◎	2	0	0	0	0
	合計	5	7	3	2	1

基本目標 3 の総括

- ・「住み続けたい」と思えるまちづくりという視点から施策を設定している。
特に 20 歳代の転出数が多いことから、若い世代に住み続けてもらえるような施策を検討していく必要がある。
- ・生活利便性の高いまちづくりについては、全ての事業において現況値を上回る数値となったが、前年度と比較すると数値が大きく下回るものもあった。
- ・健康でいきいきと暮らせるまちづくりについては、実施事業を「知る」「参加する」部分でやや壁がある。

補足資料

【資料 3 - 4】転入者数・転出者数 経年データ

基本目標1：まちの魅力を向上させ、新たな人の流れをつくる

基本目標の基本的な考え方：市内の観光資源等の魅力を最大限に活用したり、新たな企業の誘致を行ったりすることで、市外からの交流人口の増加を図る。

※重要業績評価指標(KPI)の進捗状況
 ◎：目標達成 ○：H26年度現況値を上回っている
 △：現況値から横ばい ×：現況値を下回っている
 -：数値が判明していない

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
	基本目標1	P 43	市外からの平日及び 休日の滞在人口	平日：16,274人 休日：17,383人	平日：16,261人 休日：17,284人	平日：16,006人 休日：17,321人	平日：16,202人 休日：17,188人	平日：16,660人 休日：16,951人	平日：17,088人 休日：18,252人 (5年間で5%増)	×	企画政策課	平成30年度は、市外からの来訪者の増加に向けて、リニューアルオープンした村山温泉「かたくりの湯」における自主事業の実施や、魅力づくり推進事業を行った。	単発の来訪で終わらず、継続的・定期的な来訪につながる施策が必要である。また、特に休日の滞在人口が減少傾向にあるため、継続的に増加させる取組の実施が求められている。	平成30年3月23日にリニューアルオープンした村山温泉「かたくりの湯」を有効活用するとともに、他の地域資源を活用したセットプラン等を実施して滞在人口の増加を図る予定である。	RESASのデータ入替えにより、H26年の数値を変更(H29.3.31決定)
1 戦略的な情報発信		P 44	広報戦略(シティプロモーション戦略)の策定	—	—	検討	策定	— (策定済)	策定	◎	秘書広報課	平成29年度に計5回の広報戦略策定委員会を開催し、広報戦略を策定した。	特になし	引き続き広報戦略に基づき取組を実施する。	
	広報戦略(シティプロモーション戦略)の策定	P 44	広報戦略(シティプロモーション戦略)の策定	—	—	検討	策定	— (策定済)	策定	◎	秘書広報課	平成29年度中に計5回の広報戦略策定委員会を開催し、3月に広報戦略を策定した。	特になし	引き続き広報戦略に基づき取組を実施する。	
	武蔵村山の魅力教え隊の活用	P 44	武蔵村山の魅力教え隊隊員数	—	78人	304人	407人	531人	500人	◎	秘書広報課	市報及びSNSでの隊員募集に加え、観光課で実施した平成30年度武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー等のイベントを通して募集を行った。	特になし	引き続き市報及びSNSでの隊員募集に加え、各種イベントで募集を行う。	
	SNS等による広報手段の充実	P 44	市公式フェイスブック「いいね!」件数	417件	589件	661件	769件	817件	800件	◎	秘書広報課	平成30年度はフェイスブックの投稿を263件、ツイッターの投稿を641件行った。	特になし	投稿文の文頭に見出しを付けるなど、一目で趣旨が分かるツイッター、フェイスブックの投稿を行う。また、全課が積極的にSNSを用いて広報をすることを促していく。	
		市公式ツイッター「フォロワー」数	952件	1,383件 (H28.5.4)	1,742件 (H29.4.7)	2,152件 (H30.3.31)	2,454件 (H31.3.31)	1,800件	◎						

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標1

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和 元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
2 創業を希望している市民への支援		P 45	制度を利用した創業者数	—	0人/年	20人/年	16人/年	2人/年	21人/年	○	産業振興課	個別相談(24回)、むらやま創業塾「ゆめ」(全5回)、むらやま創業セミナー「みらい」(全4回)及び創業者、創業希望者等の交流を目的とした創業交流会(1回)を開催した。	支援事業への市内参加者が少ないため、市内の創業希望者や創業に興味のある方を発掘する方法を検討していく必要がある。	各種支援事業の内容については、過去2年の参加者数やアンケート等を参考にし、より参加者が求めている内容となるよう改善に努めていく。	
	創業支援の推進	P 45	制度を利用した創業者数	—	0人/年	20人/年	16人/年	2人/年	21人/年	○	産業振興課	個別相談(24回)、むらやま創業塾「ゆめ」(全5回)、むらやま創業セミナー「みらい」(全4回)及び創業者、創業希望者等の交流を目的とした創業交流会(1回)を開催した。	支援事業への市内参加者が少ないため、市内の創業希望者や創業に興味のある方を発掘する方法を検討していく必要がある。	各種支援事業の内容については、過去2年の参加者数やアンケート等を参考にし、より参加者が求めている内容となるよう改善に努めていく。	
	ウィメンズチャレンジプロジェクト	P 45	セミナー参加者数	—	80人/年	209人/年	740人/年	705人/年	120人/年	◎	協働推進課	創業・起業支援として創業塾や創業セミナー、プチ起業フェスタ等を開催、再就職支援として相談会や就職準備講座等を開催した。	実際の創業・起業、再就職等につながる有益な事業を検討するなど、引き続き参加者を維持していく必要がある。	引き続きプチ起業フェスタ、起業者講話会、創業塾などによる創業・起業支援や、相談会や講座等による再就職支援を行っていく。	地方創生先行型事業
	空き店舗活性化事業への支援	P 45	空き店舗を活用した事業数	1事業	1事業	0事業	0事業	0事業	2事業	×	産業振興課	各商店会に都補助事業の案内及び商店会の現況聴取などを行った。 市内の空き店舗を活用した創業を促すため、(公財)東京都宅地建物取引業協会立川支部と市内空き店舗の情報提供について調整している。	都補助事業が期限付きであるため、利用する商店会がないなどの課題がある。	市独自の支援(補助金等)を検討していく。	

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I						進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考	
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度							令和元年度 (目標値)
3 産業の振興と雇用の促進		P 46, 47	企業誘致制度に基づく事業所の新規指定	—	0事業所	0事業所	1事業所	1事業所	2事業所	○	産業振興課	事業所と取引関係がある金融機関や不動産業者への広報を行った。 また、関係各課へ制度を周知し、該当する事業所の情報提供について依頼した。	新規指定に向けて、事業所の移転を希望する市外事業所への効果的な広報手段を検討する必要がある。	金融機関、不動産業者等との連携を強化していく。	
			ウィメンズチャレンジプロジェクトセミナー参加者数	—	80人/年	209人/年	740人/年	705人/年	120人/年	◎	協働推進課	創業・起業支援として創業塾や創業セミナー、プチ起業フェスタ等を開催、再就職支援として相談会や就職準備講座等を開催した。	実際の創業・起業、再就職等につながる有益な事業を検討するなど、引き続き参加者を維持していく必要がある。	引き続きプチ起業フェスタ、起業者講話会、創業塾などによる創業・起業支援や、相談会や講座等による再就職支援を行っていく。	地方創生先行型事業
	(仮称)産業振興ビジョンの策定の検討	P 47	(仮称)産業振興ビジョンの策定	—	検討	検討	検討	検討	検討終了	△	産業振興課	近隣自治体の産業振興計画策定状況等の情報収集、計画作成委託の見積徴収を行った。	他自治体の計画策定方法等に関する情報収集を行い、費用対効果等を考慮した策定方法を検討する必要がある。	引き続き産業振興ビジョンの策定の検討を行う。	
	企業誘致制度の拡充(新青梅街道沿道)	P 47	企業誘致制度の対象拡大	—	検討	検討	検討	検討	検討終了	△	産業振興課	新青梅街道沿線地区まちづくり計画の推進状況等について、都市計画課と情報共有を図っている。	新青梅街道沿線地区まちづくり計画の趣旨に合致した企業の効果的な誘致方法を検討する必要がある。	新青梅街道沿道地区まちづくり計画の推進状況を勘案しながら、検討を進めるとともに、他自治体への調査を実施する。	
	企業誘致制度の周知(雇用促進奨励金)	P 47	企業誘致による新規就労者	2人	0人	0人	0人	0人	10人	×	産業振興課	新規就労者の増加を図るため、新規指定企業の増加に向けて、事業所と取引関係がある金融機関や不動産業者への広報を行った。 また、関係各課へ制度を周知し、該当する事業所の情報提供について依頼した。	現状、企業誘致制度の指定後1年間については新規就労者数の把握に努めているが、2年目以降は把握していないため、見直しを検討する必要がある。	企業誘致制度指定企業に対し、市民の雇用促進に係る依頼を行っていく。 また、指定後から現在までの新規就労者数の調査の実施について検討する。	
	工業地域における道路整備の推進	P 47	事業の推進	—	未着手	未着手	未着手	未着手	検討開始	△	都市計画課 道路下水道課	未着手	検討に先立ち、「(仮称)産業振興ビジョン」の策定が必要である。	「(仮称)産業振興ビジョン」策定を受けて検討を開始する予定。	
	地域ブランド認証事業の実施	P 47	ブランド認証商品数	10品目	11品目	10品目	10品目	11品目	15品目	○	産業振興課	平成27年度に1品目を認証して11品目となったが、平成28年度に1品目の認証を更新できなかった経緯がある。 平成30年度には、新たに1品目を認証したため、認証数は11品目となった。 また、平成29年度に認証ブランドシール(小)を新規作成している。	地域ブランドに認証されることで得られるメリットが少ないため、認証による優位性等を明確にする必要がある。	引き続き制度の周知を図っていく。 また、地域ブランド認証品目を取扱う店舗同士によるコラボレーション商品等の開発を促していきたい。	
	村山大島紬の振興	P 47	体験イベントへの参加者数	90人	100人	196人	206人	251人	140人	◎	産業振興課	毎年、夏休み期間中である8月末の日曜日及び月曜日に、村山大島紬機織り体験及び小物類の販売を行う「むらやま魅力発見!(年度)夏」を開催している。	夏休みの宿題として活用できることから、子ども達からの人気は高いものの、リピーターが多いため、新規の参加者の確保には、一定の課題がある。	ある程度、この体験事業の認知度が上がってきていることから、新たなPR事業を機物協同組合と検討していく。	
	ウィメンズチャレンジプロジェクト【再掲】	P 47	セミナー参加者数	—	80人/年	209人/年	740人/年	705人/年	120人/年	◎	協働推進課	創業・起業支援として創業塾や創業セミナー、プチ起業フェスタ等を開催、再就職支援として相談会や就職準備講座等を開催した。	実際の創業・起業、再就職等につながる有益な事業を検討するなど、引き続き参加者を維持していく必要がある。	引き続きプチ起業フェスタ、起業者講話会、創業塾などによる創業・起業支援や、相談会や講座等による再就職支援を行っていく。	地方創生先行型事業

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標1

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I						進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和 元年度以降の予定・計画	備考	
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度							令和元年度 (目標値)
4 時代のニーズに対応する農業の創造		P 48	認定農業者数	18人	35人	36人	39人	39人	30人	◎	産業振興課	市報等で申請者の募集を行うとともに、個別相談による農業経営改善計画のための支援を行った。	目標は既に達成しているが、市内の農業従事者の高齢化が進んでいることから、現状維持となっている。	J A及び農業委員と連携して申請者の募集を継続していく。	
	観光農園等のPRの実施	P 48	観光農園数	8か所	8か所	8か所	9か所	10か所	8か所	◎	産業振興課	毎年行われる農業まつり等で直売マップを配布した。	目標は既に達成しているが、更なる周知を図るためには、市内観光施設と連携した観光ルートの設定が必要である。	市内の観光農園を結ぶフルーツロードの設定やSNSを活用した周知を行っていきたい。	
	体験型市民農園の開設	P 48	体験型市民農園数	2か所	2か所	2か所	2か所	2か所	3か所	△	産業振興課	多摩26市における体験型市民農園の開設状況等について調査を行った。	農業委員会を通じて農家に対して呼び掛けを行っているが、理解が得られず新たな体験型市民農園の開設には至っていない。	新たな体験型市民農園の開設に向けて、引き続き農業委員会を通じた呼び掛けを行っていく。	
	援農ボランティア制度の実施	P 48	援農ボランティアの登録者数	10人	13人	13人	12人	13人	25人	○	産業振興課	市報及びホームページにボランティアの募集について掲載するとともに、各種イベント等でチラシを配布した。	市民の農業への関心を深めるため、農業体験イベント等の開催を検討するなど、市民が農業に親しむ機会を作る必要がある。	引き続き、SNS等を活用し登録者数の増加に努めるとともに、農業体験イベントを開催する。	

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標1

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I						進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度						
5 個性豊かな観光施策の推進	P 49～51	市外からの平日及び休日の滞在人口5年間で5%増	平日：16,274人 休日：17,383人	平日：16,261人 休日：17,284人	平日：16,032人 休日：17,193人	平日：16,202人 休日：17,188人	平日：16,660人 休日：16,951人	平日：17,088人 休日：18,252人 (5年間で5%増)	△	企画政策課	平成30年度は、市外からの来訪者の増加に向けて、リニューアルオープンした村山温泉「かたくりの湯」における自主事業の実施や、魅力づくり推進事業を行った。	単発の来訪で終わらず、継続的・定期的な来訪につながる施策が必要である。また、特に休日の滞在人口が減少傾向にあるため、継続的に増加させる取組の実施が求められている。	平成30年3月23日にリニューアルオープンした村山温泉「かたくりの湯」を有効活用するとともに、他の地域資源を活用したセットプラン等を実施して滞在人口の増加を図る予定である。	RESASのデータ入替えにより、H26年の数値を変更(H29.3.31決定)
		広域的観光ルートの設定	—	—	—	—	—	2ルート	△	観光課	狭山丘陵周辺自治体及び都立公園の指定管理者と観光連携事業推進実行委員会を設置し、観光ルートの検討を行った。	魅力的な観光ルートを設定するためには、狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会を通して狭山丘陵周辺地域との連携及び調整を行う必要がある。	今後、観光連携事業を通して観光ルートの設定について、検討していく。	
		フィルム・コミッションの検討	研究	研究	研究	研究	研究	検討終了	△	観光課	ひまわりガーデン武蔵村山等の撮影に係る情報提供及び調整を行うとともに、SNS等を活用し、新たに市の魅力を動画にて発信した。	定期的を実施するための体制の整備や利用料金の徴収方法の検討等が課題となっている。	令和2年度に観光協会を設立し、当該協会の収益事業(ロケーションサービス)として実施する予定。	
		市民参加による歴史散策コースの設定	—	0コース	0コース	0コース	0コース	3コース	△	文化振興課	文化財保護審議会において、これまで4回にわたって、歴史散策コースの設定について審議した。	範囲が広域にわたり、コースの設定が困難であるため、検討方法に工夫が必要である。	文化財保護審議会に対して、地区別及びテーマ別にコース案を示し、検討していく。	
村山温泉「かたくりの湯」周辺を核とした交流エリアの形成	P 50	観光ルートの設定	検討	—	—	—	—	2ルート	△	観光課	狭山丘陵周辺自治体及び都立公園の指定管理者と観光連携事業推進実行委員会を設置し、検討を行った。	魅力的な観光ルートを設定するため、狭山丘陵周辺自治体及び市内各課と緊密に連携する必要がある。また、新たな観光資源の発掘や情報提供に関する仕組み作りが課題となっている。	広域的観光ルートの設定を目指し、引き続き実行委員会にて具体化に向けた検討を行う。	
		村山温泉「かたくりの湯」の入場者数	180,197人/年	191,594人/年	190,608人/年	6,208人/年	158,958人/年	200,000人/年	×					
広域的観光ルートの設定	P 50	広域的観光ルート	—	—	—	—	—	2ルート	△	観光課	狭山丘陵周辺自治体及び都立公園の指定管理者と観光連携事業推進実行委員会を設置し、観光ルートの検討を行った。	魅力的な観光ルートを設定するためには、狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会を通して狭山丘陵周辺地域との連携及び調整を行う必要がある。	今後、観光連携事業を通して観光ルートの設定について、検討していく。	
観光PR映像の制作	P 50	村山温泉「かたくりの湯」の入場者数	180,197人/年	191,594人/年	190,608人/年	6,208人/年	158,958人/年	200,000人/年	×	観光課	温泉施設の安定的な運営を図るため、多目的ホールを使用して自主事業を実施した。また、温泉施設に対する要望・苦情等に対して可能な限り速やかに改善を図った。	リニューアルオープン以前と比較すると入場者数が減少しているため、周知方法や自主事業の内容には検討の余地がある。	温泉施設の利用者の増加を図るため、自主事業等の充実、食事メニューの研究等を行う。	地方創生先行型事業
武蔵村山の魅力教え隊の活用【再掲】	P 50	武蔵村山の魅力教え隊隊員数	—	78人	304人	407人	531人	500人	◎	秘書広報課	市報及びSNSでの隊員募集に加え、観光課で実施した平成30年度武蔵村山の魅力体験日帰りモニターツアー等のイベントを通して募集を行った。	特になし	引き続き市報及びSNSでの隊員募集に加え、各種イベントで募集を行う。	
フィルム・コミッションの研究・検討	P 50	事業の研究・検討	研究	研究	研究	研究	研究	検討終了	△	観光課	ひまわりガーデン武蔵村山等の撮影に係る情報提供及び調整を行うとともに、SNS等を活用し、新たに市の魅力を動画にて発信した。	定期的を実施するための体制の整備や利用料金の徴収方法の検討等が課題となっている。	令和2年度に観光協会を設立し、当該協会の収益事業(ロケーションサービス)として実施する予定。	

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標1

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和 元年度以降の予定・計画	備考	
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)							
	観光マップの作成	P50	観光マップの多言語 化	—	—	—	—	—	—	実施	△	観光課	多言語化を含めた観光 マップの仕様について検討 した。	ガイドブックを作成する ことにより、本市を観光に 訪れる外国人の増加を図る ことを目指しているが、案 内板の設置や対応できる職 員等の育成が課題となっ ている。	気軽に訪れることができ る日帰り型の観光地として の知名度を上げるべく、観 光資源、イベント等を広く 効果的に紹介するガイド ブックを作成し、観光PR の充実を図る。	
	文化財の観光資源としての活 用	P50	市民参加による歴史 散策コースの設定	—	0コース	0コース	0コース	0コース	0コース	3コース	△	文化振興課	文化財保護審議会におい て、これまで4回にわた り、歴史散策コースの設定 について審議した。	範囲が広域にわたり、 コースの設定が困難である ため、検討方法に工夫が必 要である。	文化財保護審議会に対 して、地区別及びテーマ別 にコース案を示し、検討し ていく。	
	市民まつり(村山デエダラま つり)の開催	P51	来場者数	75,000人/年	72,000人/年	67,000人/年	8,000人/年	70,000人/年	77,000人/年	△	△	観光課	市民と市の協働により、 地域の活性化と観光振興を 目指したまつりを開催する とともに、本市の観光大使 である栗丸裕英氏を迎え観 光振興に努めた。	まつりを開催するに当た り、協賛金等が年々減少し ていることから、現状の規 模のまつりを開催するこ とが困難になってきている。	資金の確保を図るため、 飲食及び展示販売に係る出 展料の増額や、協賛者への 返礼について検討してい く。	
	観光納涼花火大会の開催支援	P51	観客動員数	65,000人/年	60,000人/年	29,000人/年	62,000人/年	70,000人/年	68,000人/年	◎	◎	観光課	観光納涼花火大会の開催 を支援し、観光振興の活性 化を図った。	平成30年度は第40回記念 大会として開催し、目標を 上回る観客動員数を達成し たものの、観覧場所等が混 雑するなど、混乱が生じて しまった。	令和2年度は市制施行50 周年となる記念大会を開催 する。	
	ひまわりガーデン武蔵村山の 開園	P51	来場者数	8,188人/年	12,335人/年	20,385人/年	30,602人/年	22,265人/年	32,000人/年	○	○	観光課	市民ボランティア等によ るひまわりの種まきを行う ことで、市民参加の機会の 拡大及び市内商店のクーポン 券の配布等、地域の活性化 に努めた。 また、来園者数は開園日 数の減により総来園者数は 減少したが、1日当たりの 来園者数は増加した。	市民等の協力を得て開園 期間中のイベント等の充実 を図り、市内外からの来園 者の増加を図る必要があ る。	令和元年度に暫定管理用 地の一部を東京都へ返還す ることにより、令和2年度 度目標値を変更(H29.8.25 決定) 以降、来園者を減少させな い方策を検討する必要があ る。	事業継続予定及び来場者 数増加傾向のため、H31年 度目標値を変更(H29.8.25 決定)
	ウォーキングイベントの開催 支援	P51	参加者数	1,264人	350人	1,100人	386人	—	1,500人	×	×	観光課	平成29年度までは市内外 の回遊者の確保を行い、観 光の振興及び地域の活性化 を図った。また、Food グランプリとの同時開催を 行った。	— (平成29年度末事業廃止)	— (平成29年度末事業廃止)	
	グリーンヘルパー制度の充実	P51	グリーンヘルパー1 級取得者数	1人	1人	1人	10人	10人	4人	◎	◎	環境課	平成28年度にグリーンヘル パー1級育成講座を開催 し、9人が取得したことから 、合計10人が継続維持し ている。	特になし	グリーンヘルパーとの意 見交換会、環境視察等を継 続的に実施していく。	

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標1

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I						進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考	
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度							令和元年度 (目標値)
6	利便性の高い公共交通網の形成	P52	市内循環バス路線の1便当たりの年平均輸送人員	5人	5.51人	5.45人	5.40人	5.61人	6人	○	交通企画・モノレール推進課	利用促進策として、子ども向けクイズラリーを実施した。また、バスロケーションシステムを更新し、利用者の利便性の向上に努めた。	実施済の利用促進策について更なる改善を図るとともに、新たな利用促進策の実施が必要である。また、一部ルートにおける利用者数の低迷が課題となっている。	実施済の利用促進策の充実に努めるとともに、新たな利用促進策の実現に努める。また、路線の効率化に向けた見直しの在り方の検討を進める。	
	多摩都市モノレール延伸の促進	P52	事業の推進	推進	推進	推進	推進	推進	○	交通企画・モノレール推進課	・要望活動(2市1町、多摩地域都市モノレール等建設促進協議会) ・多摩都市モノレール基金積立及び募金活動 ・調査委託 ・PR推進事業(モノレール関連物品作製・販売等)	延伸の事業化に当たっては、事業採算性の確保が重要であり、モノレールの需要を喚起するまちづくりをより一層推進していく必要がある。	引き続き、市内の機運醸成のための取組を行っていくとともに、モノレールの需要を喚起するまちづくりの在り方を検討していく。		
	市内循環バス路線の検討	P52	1便当たりの年平均輸送人員	5人	5.51人	5.45人	5.40人	5.61人	6人	○	交通企画・モノレール推進課	利用促進策として、子ども向けクイズラリーを実施した。また、バスロケーションシステムを更新し、利用者の利便性の向上に努めた。	実施済の利用促進策について更なる改善を図るとともに、新たな利用促進策の実施が必要である。また、一部ルートにおける利用者数の低迷が課題となっている。	実施済の利用促進策の充実に努めるとともに、新たな利用促進策の実現に努める。また、路線の効率化に向けた見直しの在り方の検討を進める。	
7	にぎわいと活力のあるまちづくり	P53	都市核地区土地区画整理事業施行地区内の新青梅街道拡幅用地の確保率	約23%	約46%	約55%	約84%	約90%	100%	○	区画整理課	都市核地区土地区画整理事業施行地区内の新青梅街道拡幅部の用地を確保するため、後背地の区画道路を築造し、沿道建築物等の移転を推進した。	計画する事業推進を図るため、権利者の理解を得るとともに、事業費の確保に努める必要がある。	保留地処分の公売を継続して実施し、事業費の確保に努める。	
	新青梅街道拡幅用地の確保	P53	都市核地区土地区画整理事業施行地区内の新青梅街道拡幅用地の確保率(延長ベース)	約23%	約46%	約55%	約84%	約90%	100%	○	区画整理課	都市核地区土地区画整理事業施行地区内の新青梅街道拡幅部の用地を確保するため、後背地の区画道路を築造し、沿道建築物等の移転を推進した。	計画する事業推進を図るため、権利者の理解を得るとともに、事業費の確保に努める必要がある。	保留地処分の公売を継続して実施し、事業費の確保に努める。	
	新青梅街道沿道の用途地域等の変更及び地区計画の策定	P53	新青梅街道沿道地区における地区計画の累計届出件数	—	— 地区計画未策定	— 地区計画未策定	0件	0件	10件	△	都市計画課	平成29年度に新青梅街道沿道第一地区の地区計画を策定した。 平成30年度は、令和元年度に予定している第四地区地区計画等に係る事前調整を進めた。	拡幅整備事業の進捗に合わせて地区計画を策定するため、地区計画の策定期間が用地の取得状況等に左右されるなどの課題がある。	令和元年度に第四地区の地区計画等を決定し、合わせて東京都に対し事業の早期進展を要望する。	
	企業誘致制度の拡充(新青梅街道沿道)【再掲】	P53	企業誘致制度の対象拡大	—	検討	検討	検討	検討	検討終了	△	産業振興課	新青梅街道沿線地区まちづくり計画の趣旨に合致した企業の効果的な誘致方法を検討する必要がある。	新青梅街道沿線地区まちづくり計画の趣旨に合致した企業の効果的な誘致方法を検討する必要がある。	新青梅街道沿道地区まちづくり計画の推進状況を勘案しながら、検討を進めるとともに、他自治体への調査を実施する。	

基本目標2：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標の基本的な考え方：地域の実情に即し、結婚・妊娠・出産・育児をしやすい地域づくりに向けた環境整備等の取組を推進することにより、安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる社会を目指す。

※重要業績評価指標(KPI)の進捗状況
◎:目標値達成 ○:H26年度現況値を上回っている
△:現況値から横ばい ×:現況値を下回っている
-:数値が判明していない

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I						進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考	
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度							令和元年度 (目標値)
	基本目標2		合計特殊出生率	1.38	1.42	1.38	1.34	令和元年9月 公表予定	1.60	—		—	—	—	
		P54	「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	64.6%	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	72.1% (※)	70%以上	◎	子ども育成課	第二期子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査において、本内容についての設問を設けて実施した。	特になし	調査結果を踏まえて、令和元年度に第二期子ども・子育て支援事業計画の策定を行う。	※アンケート調査に対し思う(まあそう思うを含む)と回答した保護者の割合の平均値。 ・就学前児童の保護者72.8% ・小学生を待つ保護者71.3%
	1 婚活への支援	P55	市が支援を行う婚活イベントへの参加者数	12人	12人	0人	0人	0人	90人	×	子育て支援課 関係各課	平成27年度までは総合型地域スポーツクラブにおいて、婚活イベントを年2回行っていた。	どのようなイベントに対して、市がどのように支援できるか十分に検討する必要がある。	他の自治体の取組を調査する。	
	婚活イベントを行う団体等への支援	P55	イベントの開催回数	1回/年	1回/年	0回/年	未実施	未実施	3回/年	×	子育て支援課 関係各課	平成27年度までは総合型地域スポーツクラブにおいて、婚活イベントを年2回行っていた。	どのようなイベントに対して、市がどのように支援できるか十分に検討する必要がある。	他の自治体の取組を調査する。	
	2 子どもとお出かけしやすいまちづくり (1)子育て情報の提供	P56	子育て情報サイトアクセス数	—	4,109件/月	4,653件/月	4,963件/月	4,229件/月	5,000件/月	○	子育て支援課	市民課及び健康推進課の窓口にてリーフレットを配布するとともに、各種イベントにおいても赤ちゃんの駅内にリーフレットを設置するなどの周知を行った。	— (平成30年度末事業廃止)	— (平成30年度末事業廃止)	
	子育て情報サイト運用事業	P56	子育て情報サイトアクセス数	—	4,109件/月	4,653件/月	4,963件/月	4,229件/月	5,000件/月	○	子育て支援課	市民課及び健康推進課の窓口にてリーフレットを配布するとともに、各種イベントにおいても赤ちゃんの駅内にリーフレットを設置するなどの周知を行った。	— (平成30年度末事業廃止)	— (平成30年度末事業廃止)	地方創生先行型事業
	(2)子どもとの快適な外出	P57	移動式赤ちゃんの駅の市主催事業での利用件数及び地域イベント等への貸出件数	—	2件/年	4件/年 村山デエダラまつり Food(風土)グランプリ 観光納涼花火大会 第三小学校運動会	3件/年 村山デエダラまつり 市民会館事業 Food(風土)グランプリ 観光納涼花火大会	5件/年 村山デエダラまつり 市民会館事業 Food(風土)グランプリ 観光納涼花火大会	5件/年	◎	子育て支援課	市内の5つのイベントにおいて、貸出事業を行った。	市報及び公式ホームページにて周知を図っているが十分とはいえない。	野外イベントを行う市内の団体に周知を図り、利用件数の増加に努める。	
	移動式赤ちゃんの駅貸出事業	P57	地域イベント等での活用	—	2件/年	2件/年 観光納涼花火大会 第三小学校運動会	1件/年 観光納涼花火大会	1件/年 観光納涼花火大会	3件/年	○	子育て支援課	市内の1つのイベントにおいて、貸出事業を行った。	市報及び公式ホームページにて周知を図っているが十分とはいえない。	野外イベントを行う市内の団体に周知を図り、利用件数の増加に努める。	地方創生先行型事業

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
(3)親と子の居場所づくり		P 58	「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだ」という「就学前児童の保護者の割合」	64.0%	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	72.8%	70%以上	◎	子ども育成課	第二期子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査において、本内容についての設問を設けて実施した。	特になし	調査結果を踏まえて、令和元年度に第二期子ども・子育て支援事業計画を策定する。	アンケート調査に対しそう思うと回答した保護者の割合。
	児童館の子育て支援拠点化の推進	P 58	実施児童館数	—	6か所	6か所	6か所	6か所	6か所	◎	子ども育成課	協働事業提案制度を活用して「広げよう！子育て支援の輪プロジェクト」を年間15回開催した。平成29年度からは「児童館親子ひろば事業」として実施しており、平成30年度は20回開催することにより、1,176人が利用するなど、児童福祉の向上を図った。	特になし	利用者のニーズに合わせ、事業内容及び事業拡充を行う。	
	絵本の読み聞かせ事業	P 58	絵本の読み聞かせ実施回数及び参加者数(わくわくタイム)	—	40回/年 801人/年	40回/年 777人/年	46回/年 639人/年	46回/年 1037人/年	20回/年 400人/年	◎	子育て支援課	武蔵村山高校と連携してイベントを実施するなど、参加者の増加を図った。	継続して目標を達成しているが、更なる拡充を目指す。	現在の実施状況を継続した上で、開催場所の拡充について検討する。	地方創生先行型事業
			絵本の読み聞かせ実施回数及び参加者数(おはなしの会)	108回/年 954人/年	110回/年 870人/年	109回/年 909人/年	104回/年 961人/年	114回/年 1,014人/年	144回/年 1,080人/年	○	図書館	平成29年度と同様に7・8月におはなしの会の開会回数を増やし、絵本や紙芝居の読み聞かせを行った。	これまでに多くのボランティアを養成してきているが、事情により活動できなくなった方もいるため、実施回数の拡大には課題が残っている。	令和元年度以降に新たにボランティア養成講座を開催するなど、ボランティアの養成に努めていく。	
3 子育て、子育てと子ども家庭の支援 (1)子育て・子育ての支援		P 59	認可保育所の入所待機児童数	30人 平成26年4月1日の待機児童数(旧定義)	22人 平成27年4月1日の待機児童数(旧定義)	11人 平成28年4月1日の待機児童数(旧定義)	27人 平成29年4月1日の待機児童数(旧定義)	57人 平成30年4月1日の待機児童数(旧定義)	0人	×	子ども育成課	保育所に対して弾力的運用による受け入れ態勢の確保及び保育士の処遇改善や宿舍借手補助を行い、保育士の確保に努めた。	人口の動向を踏まえ、保育の量の見込み及び確保方策等を検討する必要がある。	令和元年度に策定する第二期子ども・子育て支援事業計画において、具体的な内容を検討する。	
保育コンシェルジュ事業の実施	P 59	実施箇所数	—	0か所	1か所	1か所	1か所	1か所	◎	子ども育成課	平成28年4月から事業を実施しており、保育サービスに係る情報の収集・提供、相談対応、利用の援助・支援に努めた。	特になし	令和元年度以降も継続して実施する。		
延長保育の充実	P 59	延長保育の実施保育所数	10か所	10か所	11か所	11か所	11か所	13か所	○	子ども育成課	平成28年4月から1園、開所時間を1時間拡大し、延長保育を実施している。	未実施の保育所については、園の方針等のため実施が困難になっている。	実際のニーズを確認し、実施設数について検討を行う。		
休日保育の充実	P 59	休日保育の実施保育所数(日曜日・祝日の保育)	—	0か所	0か所	0か所	0か所	1か所	△	子ども育成課	実施可能な保育所と協議を行い、実施に向けての調整を行った。	各保育所において、休日保育を実施するための保育士の確保が課題となっている。	令和元年度の実施を目指し、保育所と協議している。		
病児・病後児保育事業の実施	P 59	設置数及び延べ利用者数	1か所 30件/年 (病後児のみ)	1か所 30件/年 (病後児のみ)	1か所 44件/年 (病児・病後児)	1か所 234件/年 (病児・病後児)	1か所 290件/年 (病児・病後児)	1か所 50件/年 (病児・病後児)	◎	子ども育成課	病児・病後児保育の利用者範囲を拡大し、市役所での事前登録手続を廃止した。	特になし	目標を大きく上回っているが、今後は、病児保育事業へ拡大したことによる周知活動を行うとともに、利用者増に伴う課題点については適切に対応していく。		

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
(2)妊娠から出産、育児の切れ目のない支援		P60	(仮称)子育て世代包括支援センターの整備	—	推進	設置準備	1か所	1か所	1か所	◎	健康推進課 子育て支援課	平成29年4月1日から、子育て世代包括支援センター「ハグはぐ・むらやま」を保健相談センターお伊勢の森分室内に設置した。	特になし	健診やイベント等を活用して、チラシを配布するなど、子育て世代包括支援センターの周知に努める。	
	(仮称)子育て世代包括支援センターの整備	P60	施設の整備	—	推進	設置準備	1か所	1か所	1か所	◎	健康推進課 子育て支援課	平成29年4月1日から、子育て世代包括支援センター「ハグはぐ・むらやま」を保健相談センターお伊勢の森分室内に設置した。	特になし	健診やイベント等を活用して、チラシを配布するなど、子育て世代包括支援センターの周知に努める。	
(3)子どもの安心・安全の確保		P61	乳幼児に対する3日分の備蓄率(使い捨て哺乳瓶、子ども用迷子札、粉ミルク等)	—	生活用品100% 乳児用食品88.2% 幼児用食品25.0%	100%	100%	100%	100%	◎	子ども育成課 防災安全課	平成27年度に市内各児童館へ備蓄庫を設置し、使い捨て哺乳瓶、子ども用迷子札などを配備した。平成28年度の追加備蓄により、乳幼児向けの備蓄率を100%とした。	食品類の保存年限が令和2年度のため、物資の入替えが必要である。	保存年限に合わせて定期的に物資の更新を行う。	
	放課後子ども教室実施校数		6校	7校	7校	7校	7校	9校	○	文化振興課	平成27年度に1校を新規開設した。引き続き、残り2校の開設の検討を継続している。	未開設校については、空き教室など、実施場所の確保が困難となっている。また、現状、児童を見守るサポーター数が不足気味であることが、新規開設の課題の一つとなっている。	未開設校に対して、事業に対する理解を得られるよう、引き続き実施の可能性を探っていく。		
子ども・乳幼児のための防災用品備蓄事業	P61	子ども・乳幼児が避難した避難所等に物資を補給する連携訓練の実施	—	1回	0回	1回	1回	1回/年	◎	子ども育成課	武蔵村山市総合震災訓練において実施してきた。	食品類の保存年限が令和2年度であるため、物資の入替えが必要である。	保存年限に合わせて定期的に物資の更新を行う。	地方創生先行型事業	
予防接種情報システム導入事業	P61	登録者数	—	518件 (H27.7月～ H28.3月)	406件/年	371件/年	316件/年	400件/年	○	健康推進課	生後初めての予防接種予診票を送付する際に予防接種情報システムの案内チラシを同封し、周知を図った。また、転入者には予防接種予診票を交付する際に案内チラシを交付し周知を図った。	特に大きな課題はなく、システム自体も市民に広く周知されているが、目標値を達成できなかったため、乳幼児健診等の機会を捉え、更に周知を図り登録者数の確保に努める。	乳幼児健診等の機会を捉え、予防接種情報システムの周知を図っていく。	地方創生先行型事業	
放課後子ども教室の充実	P61	放課後子ども教室実施校数	6校	7校	7校	7校	7校	9校	○	文化振興課	平成27年度に1校を新規開設した。引き続き、残り2校の開設の検討を継続している。	未開設校については、空き教室など、実施場所の確保が困難である。また、現状、児童を見守るサポーター数が不足気味であることが、新規開設の課題の一つとなっている。	未開設校に対して、事業に対する理解を得られるよう、引き続き実施の可能性を探っていく。		
放課後子ども総合プラン事業の推進	P61	一体型の運営を行う学童クラブ及び放課後子ども教室の設置数	—	2か所	2か所	4か所	4か所	2か所	◎	子ども育成課 文化振興課	平成29年度から新たに2か所で事業を開始したため、計4か所で事業を実施している。	放課後子ども教室は学校敷地内で実施しているため、学校敷地内に学童クラブのない学校での一体型運営は困難な状況である。	連携型の事業内容に関し、充実を図っていく。		

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標2

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
(4)子どもの貧困対策の推進		P 62	子どもの貧困対応プランの策定	—	情報収集	情報収集	調査方法の検討	実態把握 (アンケート調査の実施)	策定	○	地域福祉課 子育て支援課 関係各課	平成30年度は、子どもとその保護者等を対象とした「生活実態調査」及び「ひとり親家庭等ニーズ調査」をアンケートにより実施し、報告書を作成・公表した。	市独自の貧困率を算出するためには全世帯の所得や税情報、手当や生活保護の受給状況等の様々な情報を必要とする。また、当該情報をコンサルタント事業者へ提供して分析するため、個人情報保護の問題も生じ、算出は困難である。	平成30年度に実施したアンケート調査の回答を踏まえ、本市における子どもの貧困対策を総合的に進めるための旗印となる「(仮称)武蔵村山市子どもの未来応援プラン」を策定する。	多摩26市中、平成30年度末時点で計画又は報告書を作成した自治体は本市を含めて7市となっている。
	子どもの貧困対応プランの策定	P 62	子どもの貧困対応プランの策定	—	情報収集	情報収集	調査方法の検討	実態把握 (アンケート調査の実施)	策定	○	地域福祉課 子育て支援課 関係各課	平成30年度は、子どもとその保護者等を対象とした「生活実態調査」及び「ひとり親家庭等ニーズ調査」をアンケートにより実施し、報告書を作成・公表した。	市独自の貧困率を算出するためには全世帯の所得や税情報、手当や生活保護の受給状況等の様々な情報を必要とする。また、当該情報をコンサルタント事業者へ提供して分析するため、個人情報保護の問題も生じ、算出は困難である。	平成30年度に実施したアンケート調査の回答を踏まえ、本市における子どもの貧困対策を総合的に進めるための旗印となる「(仮称)武蔵村山市子どもの未来応援プラン」を策定する。	多摩26市中、平成30年度末時点で計画又は報告書を作成した自治体は本市を含めて7市となっている。
(5)子育てと仕事を両立する環境づくり		P 63	ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定件数	—	0件	0件	0件	0件	4件	—	協働推進課	平成29年度は他自治体からの情報収集を行うとともに市内事業者30社にアンケートを実施し、検証等を行った。 平成30年度は大規模調査により市内事業者の実態を把握し、今後の方向性を市民委員会で検討し、提言書にまとめた。	認定されることにより事業者が得られるメリットを検討するとともに、継続した認定事業所の増加に向けた仕組み作りが課題となっている。	令和元年度中に認定制度を構築し、随時認定を行っていく。	
	市民、事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進	P 63	ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定件数	—	0件	0件	0件	0件	4件	—	協働推進課	平成29年度は他自治体からの情報収集を行うとともに市内事業者30社にアンケートを実施し、検証等を行った。 平成30年度は大規模調査により市内事業者の実態を把握し、今後の方向性を市民委員会で検討し、提言書にまとめた。	認定されることにより事業者が得られるメリットを検討するとともに、継続した認定事業所の増加に向けた仕組み作りが課題となっている。	令和元年度中に認定制度を構築し、随時認定を行っていく。	
	男性市職員の育児休業の取得促進	P 63	男性市職員の育児休業取得率	0%	11%	0%	14.3%	16.7%	10%	◎	職員課	育児休業の新規対象職員に対し冊子「すこやかな成長を願って」を配布するとともに、男性職員に対して積極的に育児休業を取得するように促している。	目標値である10%は達成したが、今後、更に取得率を向上させるため、職場全体の意識改革のみならず、育児休業の取得を阻害する要因を考え、取得率向上に向けた方策を検討する必要がある。	育児休業の新規対象職員の男性職員に対し、育児休業取得の提案及び個人の事情等に配慮した具体的な情報提供を行う。	
4 子どもの知力・体力の向上		P 64	高校進学に際して第一志望校へ合格する割合	—	60%	81%	79.4%	83.2%	80%	◎	教育指導課	小中一貫教育を全小・中学校で実施し、義務教育9年間を通した系統的なキャリア教育の充実を図ってきた。	年度によって生徒の実態も異なることから、継続的に目標値を達成できるようキャリア教育の充実を図ってきた。	各中学校区及び各学校の実態に応じたキャリア教育の充実を図るため、進路指導主任会等で各学校の取組の情報交換するとともに、その方向性について検討していく。	
	小・中学校特進講座	P 64	受講者の市学力調査(中1数学)の正答率が80%以上になる割合	—	41%/年	25.8%/年	33.5%/年	—	80%/年	×	教育指導課	平成27年度から平成29年度までは、市内全小・中学校に塾講師を派遣し、学習支援を実施した。 平成30年度は、市内全中学校に塾講師を派遣し、学習支援を実施した。	自ら進んで学習することを希望する生徒を対象に補修教室(特進講座)を開設し、より一層の学力向上を目的に実施している。 なお、学力調査の正答率は、年度によってばらつきが生じている。	— (平成30年度末事業廃止)	地方創生先行型事業
	市学力調査の実施	P 64	全国平均正答率を100%とした場合の平均正答充足率	80%/年	89%/年 (H27.4月実施)	国語90.5%/年 数学87.7%/年 (H28.4月実施)	国語93.6%/年 数学91.5%/年 (H29.4月実施)	国語91.5%/年 数学93.1%/年 (H30.4月実施)	90%/年	◎	教育指導課	各学校において、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための授業改善や取組の充実を図った。	若手教員の増加に伴い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせる授業を確保することが課題となっている。	学力向上推進委員会において、児童・生徒の基礎的・基本的な知識及び技能の定着に向けた授業改善について検討し、実践する。	

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
	英語検定の実施	P 64	各級の合格率	—	33.9%	35.0%	31.3%	33.1%	50%/年	△	教育指導課	中学校第3学年生徒を対象に、技能試験合格という具体的な目標を持たせることにより学習に対するチャレンジ精神を高揚し、学力向上を図るため英語検定を実施している。	英語検定に挑戦する意欲の高まりも一つの成果であるが、その効果が各級の合格率と相反しているため、全体として生徒の英語力は高まっているが、数値に表れにくい状況となっている。	平成30年度から受検対象を全生徒から希望者に変更したため、挑戦する意欲や英語力の向上を図っていく。	地方創生先行型事業
	部活動支援事業の実施	P 64	対象部活動の入部者数	—	部員数12.3%減 (H26年度比)	部員数21.1%減 (H27年度比)	部員数31.8%減 (H27年度比)	—	部員数20%増 (H27年度比)	×	教育指導課	平成29年度までは、委託事業として中学校の1競技について専門的な外部指導員を派遣し、技能面や戦術面の指導を行った。 平成30年度は、国の指針に基づき市の部活動ガイドラインを策定し、希望校に部活動支援員を配置した。	平成29年度末をもって委託事業を廃止したため、今後の各学校における運動部活動指導及び支援体制の確立が課題となっている。	— (平成29年度末事業廃止)	地方創生先行型事業
5 教育環境の整備	適応指導教室からの学校復帰率	P 65, 66	適応指導教室からの学校復帰率	6%	10.3%	13.3%	0%	0%	10%以上	×	教育指導課	何らかの原因で学校に行きづらくなった児童・生徒への登校支援に資する指導及び学習支援を推進した。	適応指導教室に通う児童・生徒の困り感の多様化に伴う支援・指導の専門性の向上や、多様化に伴う他関係機関とのより深い連携が求められる。	学校復帰を最終目標とし、一人一人の児童・生徒の実態に応じた指導の充実を図っていく。	
	小中一貫教育の推進	P 65	小中一貫校の推進	1校	2校	2校	2校	2校	4校	◎	教育指導課	中学校区を軸とし、目指す児童・生徒像を共有した小中一貫教育を全ての中学校区で推進してきた。	各学校で特色ある小中一貫教育を推進し、児童・生徒の姿として成果が表れているもの、その成果と課題の検証が十分でないことには課題が残っている。	小中一貫教育検証委員会にて、これまで取り組んできた小中一貫教育の成果と課題を整理し、今後の教育の在り方について検討を進めていく。	
	特別支援教室の設置	P 65	設置校数	—	3校	3校 平成29年4月から6校	6校 平成30年4月から9校	9校 令和元年4月から12校	9校	◎	教育指導課	平成29年度までに6校、平成30年度に3校特別支援教室を設置し、全ての小学校に特別支援教室が設置することにより、特別な支援が必要な児童への支援を充実させた。	特になし	全小・中学校への特別支援教室の設置を目指し、令和元年度に3校、令和2年度に2校、中学校の特別支援教室を設置する。	
	教育相談室事業・スクールソーシャルワーカー事業 スクールカウンセラーの配置	P 66	不登校出現率	小学校：0.85%/年 中学校：3.13%/年	小学校：0.43%/年 中学校：4.94%/年	小学校：0.41%/年 中学校：5.04%/年	小学校：0.41%/年 中学校：4.12%/年	小学校：0.79%/年 中学校：5.05%/年	小学校：0.3%/年 中学校：3%/年	×	教育指導課	S C、S S Wの活用はもとより、心理相談員と学習支援員が家庭訪問をして、引きこもり傾向のある児童・生徒の社会復帰を目指す取組を推進した。	不登校の原因である学業不振や人間関係の課題を解決するための授業改善や特別支援教育の推進を図り、学校の不登校への意識を向上させること。	学力向上推進委員会での学力向上に資する取組の検討を推進するとともに、研修会等を通して、全ての教員の特別支援教育に関する識見の向上を図っていく。	
	適応指導教室事業の実施	P 66	学校復帰率	一部：26%/年 完全：6%/年	一部：26%/年 完全：10.3%/年	一部：20%/年 完全：13.3%/年	一部：40%/年 完全：0%/年	一部：22.7%/年 完全：9.1%/年	一部：30%/年 完全：10%/年	○	教育指導課	何らかの原因で学校に行きづらくなった児童・生徒への登校支援に資する指導及び学習支援を推進した。	適応指導教室に通う児童・生徒の困り感の多様化に伴う支援・指導の専門性の向上や、多様化に伴う他関係機関とのより深い連携が求められる。	学校復帰を最終目標とし、一人一人の児童・生徒の実態に応じた指導の充実を図っていく。	

基本目標3：時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

基本目標の基本的な考え方：世代にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で、住み続けたいと思うまちづくりを目指す。

※重要業績評価指標(KPI)の進捗状況
◎:目標値達成 ○:H26年度現況値を上回っている
△:現況値から横ばい ×:現況値を下回っている
-:数値が判明していない

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
基本目標3	P67	居住年数20年以上の人の割合	58.8% (H25年度)	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	57.8%	60% (H30年度市民意識調査による)	×	企画政策課	平成30年度に、第五次長期総合計画等を策定するための市民意識調査を実施し、状況の把握に努めた。	調査の結果、現況値を下回っており、居住年数20年以上の人の割合を増加させるためには課題が残っている。	若年層を中心とした人口流出を抑えるなど、効果的な施策を推進していく。	
			20歳代の転出者割合	11.7%	12.9%	13.3%	13.5%	12.6%	10%以下	×	企画政策課	住み続けたいと思うまちづくりに係る各種施策を実施した。	近年、20代の転出者割合が増加傾向にあり、若年層の転出抑制を図るためには課題が残っている。	若年層を中心とした人口流出を抑えるなど、効果的な施策を推進していく。	
1 生活利便性の高いまちづくり	P68	買い物等日常生活の利便性の満足度	—	64.7%	— アンケート調査未実施	— アンケート調査未実施	61.5%	70%以上	×	関係各課	平成30年度に、武蔵村山市第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る各種意識調査を実施し、状況の把握に努めた。	調査の結果、現況値を下回っており、買い物等日常生活の利便性の満足度を向上させるためには課題が残っている。	交通利便性の向上につながるまちづくりなど、効果的な施策を推進していく。		
	P68	乗合タクシーの運行	利用者数	3,520人/年	4,119人/年	4,821人/年	4,680人/年	4,028人/年	4,400人/年	○	交通企画・モノレール推進課	市報等による周知により、登録者数や利用者数の拡大に努めた。 また、地域公共交通会議での意見を踏まえ、利用者の利用回数ごとの利用の実態を把握するため、新たなデータ収集整理を開始した。	年間利用者数が平成28年度に目標値(4,821人/年)を達成したものの、その後利用者数が減少に転じ、目標値を割り込んだことから、その原因分析を行うとともに、利用促進策の検討を行う必要がある。	年齢、回数、時間帯、乗降場所といった区分毎の利用実態を踏まえ、利用促進に繋がる原因分析や利用促進策の検討及び実施を進めていく。	
	P68	多摩都市モノレール延伸の促進【再掲】	事業の推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	○	交通企画・モノレール推進課	・要望活動(2市1町、多摩地域都市モノレール等建設促進協議会) ・多摩都市モノレール基金積立及び募金活動 ・調査委託 ・PR推進事業(モノレール関連物品作製・販売等)	延伸の事業化に当たっては、事業採算性の確保が重要であり、モノレールの需要を喚起するまちづくりをより一層推進していく必要がある。	引き続き、市内の機運醸成のための取組を行うとともに、モノレールの需要を喚起するまちづくりの在り方を検討していく。	
P68	市内循環バス路線の検討【再掲】	1便当たりの年平均輸送人員	5人	5.51人	5.45人	5.40人	5.61人	6人	○	交通企画・モノレール推進課	利用促進策として、子ども向けクイズラリーを実施した。 また、バスロケーションシステムを更新し、利用者の利便性の向上に努めた。	実施済の利用促進策について更なる改善を図るとともに、新たな利用促進策の実施が必要である。 また、一部ルートにおける利用者数の低迷が課題となっている。	実施済の利用促進策の充実を図るとともに、新たな利用促進策の実現に努める。 また、路線の効率化に向けた見直しのあり方の検討を進める。		

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
2 安心して暮らせるまちづくり		P69, 70	地域みんなでまちづくり会議の設置数	4区域	6区域	9区域	9区域	9区域	9区域	◎	協働推進課	市内9区域にまちづくり会議を立ち上げ、運営を支援した。	目標値は達成しているものの、会議の内容が固定化される傾向にあるため、若者の斬新な意見などが必要となってきている。	地域担当職員を部長から若手職員に変更することで、会議の活性化を図っていく。 また、地域担当職員及び会員に向けて会議の進め方についての研修を行う。	
			多摩直下地震最大避難者数3日分の備蓄率	65.1%	78.7%	91.9%	96.0%	90.3%	100%	○	防災安全課	食品ロスの削減のため、消費期限が到来する備蓄食品の配布基準を定め、自主防災組織等が実施する防災訓練等で配布すること等により、期限が到来した備蓄食品の有効活用を図った。	備蓄数のうち、約3分の1を東京都寄託物資が占めており、東京都による物資の寄託、回収のタイミングによって備蓄数が大きく左右される。	これまでの東京都寄託物資の寄託、回収のタイミングを踏まえ、備蓄目標及び備蓄計画の見直しを行う。	備蓄目標見直しのため、指標の備蓄食数及びH31年度目標値を変更(H29.8.25決定)
	災害対策用備蓄物資の計画的な購入	P69	多摩直下地震最大避難者数3日分87,399食の備蓄	56,930食	68,810食	80,280食	83,860食	78,920食	87,399食	○	防災安全課	食品ロスの削減のため、消費期限が到来する備蓄食品の配布基準を定め、自主防災組織等が実施する防災訓練等で配布すること等により、期限が到来した備蓄食品の有効活用を図った。	備蓄数のうち、約3分の1を東京都寄託物資が占めており、東京都による物資の寄託、回収のタイミングによって備蓄数が大きく左右される。	これまでの東京都寄託物資の寄託、回収のタイミングを踏まえ、備蓄目標及び備蓄計画の見直しを行う。	備蓄目標見直しのため、指標の備蓄食数及びH31年度目標値を変更(H29.8.25決定)
	災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施	P69	災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施	—	1回/年	0回/年	1回/年	1回/年	1回/年	◎	協働推進課	社会福祉協議会及びボランティア・市民活動センターと協力し、市民等が参加する災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施した。	目標値を達成しているものの、マニュアルの充実や、災害ボランティアセンターへの理解を促進することについては課題が残っている。	訓練結果を検証や、マニュアルの更新により、災害時に迅速な対応ができる体制を整えている。 また、講演会等を企画し、広く市民等の理解を深めていく。	
	マンホールトイレの設置	P70	設置基数	—	0基	25基	50基	75基	75基	◎	道路下水道課	平成28年度から30年度までの三年間に避難所15か所に計75基のマンホールトイレを整備した。	特になし	今後は、地域防災計画の改定等を踏まえて、増設等について検討していく。	
	避難行動要支援者個別計画の策定	P70	個別計画の策定済者数 個別計画書の作成済者数	—	0人	0人	1,172人	1,304人	1,500人	○	地域福祉課	避難行動要支援者名簿管理システムにより、新たに名簿登録された方に対して同意確認書及び個別計画書の作成のための調査票を送付し、回答があった方の個別計画書を作成した。	名簿登録区分のうち、登録が任意となる、65歳以上の一人暮らしの方に対する避難支援体制を構築するため、本人及び地域の理解を促していく必要がある。	平成30年12月に75歳以上一人暮らしの1,768人に同意確認書を送付した結果、3月31日現在519人から同意を得た。このことから、個別計画書の作成者は、約500人の増となる予定である。	
	地域みんなでまちづくり会議及び職員地域担当制の充実	P70	地域みんなでまちづくり会議の設置数	4区域	6区域	9区域	9区域	9区域	9区域	◎	協働推進課	市内9区域にまちづくり会議を立ち上げ、運営を支援した。	目標は達成しているものの、会議の内容が固定化される傾向にあるため、若者の斬新な意見などが必要となってきている。	地域担当職員を部長から若手職員に変更することで、会議の活性化を図っていく。 また、地域担当職員及び会員に向けて会議の進め方についての研修を行う。	
	(仮称)協働推進プランの策定	P70	(仮称)協働推進プランの策定	—	検討	検討	検討	検討	策定	△	協働推進課	プランの策定に向けて、近隣市等の情報を収集するなどの検討を行ってきた。	近年、協働事業提案制度における提案件数が低調となっている現状を踏まえると、市民との協働を進めるための仕組み作りが課題となっている。	協働事業提案制度の見直しを検討するとともに、(仮称)協働推進プラン策定に向けた検討を行っている。	
	無作為抽出を活用した市民参加制度	P70	制度の導入	—	検討	検討	検討	検討	導入	△	企画政策課	本制度の導入に向けて公募委員比率の拡大を図るため、平成30年度に「附属機関等における公募委員の公募に関する指針」を改正し、公募委員の割合基準を各附属機関等における委員の25%以上として定めた。	平成30年4月1日現在の附属機関等における公募委員割合は約5%となっており、目標とする25%を下回っていることから、本制度の導入を契機に公募委員の拡充を図る必要がある。	令和元年度中に本制度を導入するとともに、積極的に活用することにより、公募委員割合の増加を図る。	

武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標3

具体的施策	事業名称	総合戦略 機能ページ	K P 1							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和 元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
3 健康でいきいきと暮らせるまちづくり	P71, 72	保健師の認知割合	—	15%	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	50%	—	健康推進課	各種健(検)診や地区活動等を通じて市民の様々な相談に応じている。	市民向け講演会等を企画し、市民の健康増進を考慮する専門職がいることを周知していく。	市民向け講演会等を企画し、市民の健康増進を考慮する専門職がいることを周知していく。	
		シルバー人材センター会員数	1,178人	1,143人	1,122人	1,132人	1,092人	1,300人	×	地域福祉課	平成29年度から本格的な開始となった派遣事業では就労機会の拡大を図り、前年度比で約15倍の実績となった。 一方、民間企業への派遣事業拡大は積極的な交渉を行っているが、企業ニーズと合わず厳しい状況が続いている。	「派遣事業」等に関する新たな業務開拓及び発注者の希望に該当する会員・会員数の確保・会員の育成が課題となっている。	新たなパンフレットを作成し派遣事業の理解を求め、また、月1回の説明会を開催するなど、派遣事業の拡大及び就労機会の拡大につなげていく。 さらに、専門分野の知識、技能を持った人材募集を市報等に掲載するなど、会員の確保に努めていくとともに、研修会等により会員の技能習得・向上に努める。		
		市民の1年間での運動・スポーツ実施率	61%	— アンケート調査 未実施	66%	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	68%	—	スポーツ振興課	スポーツ都市宣言事業やスポーツ推進委員協議会、スポーツ協力員連絡会事業により、市民がスポーツを行う機会の提供に努めた。	運動を行うための機会は提供できているが、運動する必要性など、動機付けについては課題が残る。	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、運動・スポーツへの機運醸成を図り、スポーツ実施率の向上や、生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図っていく。	地方創生先行型事業	
健康教室の実施	P72	参加者数	425人/年	205人/年	187人/年	202人/年	211人/年	580人/年	×	健康推進課	健康づくり生き活き運動塾、ヘルシースリム教室、骨粗しょう症予防教室、ゆがみ解消ヨガ体操教室、ピラティス教室、フットケア教室、ウォーキング教室を開催した。	参加者が固定されてきており、新たな参加者を呼び込む方法等について検討する必要がある。	引き続き、市民ニーズを捉えた教室を企画・実施していく。		
医師、保健師等による健康相談の実施	P72	参加者数	55人/年	26人/年	21人/年	27人/年	15人/年	120人/年	×	健康推進課	市民にとって身近な施設である市役所で医師、保健師及び栄養士による相談を開催した。	参加者が少ないことから相談日を設けて実施する方法を廃止し、保健相談センター及び同センターお伊勢の森分室において、日常的に保健師等が市民からの健康・栄養に関する相談に応じていく。	保健相談センター及び同センターお伊勢の森分室において、日常的に保健師等が市民からの健康・栄養に関する相談に応じていく。		
ゲートキーパーの養成	P72	ゲートキーパーの養成数	94人	134人	164人	202人	241人	250人	○	健康推進課	職員研修の一環としてゲートキーパー研修を実施していたが、ほとんどの職員が受講したため、平成30年度から市民等を対象としたゲートキーパー研修を実施している。	市民等を対象としたゲートキーパー養成研修を実施しているものの、ゲートキーパーの養成数が目標を下回っているため、市民等に対して効果的に周知を図る必要がある。	市民等を対象としたゲートキーパー養成研修を実施する。また、児童・生徒の保護者、関係団体等に対して広く周知し参加者の募集に努める。		
地域スポーツ活動応援事業	P72	市民の1年間での運動・スポーツ実施率	61%	— アンケート調査 未実施	66%	— アンケート調査 未実施	— アンケート調査 未実施	68%	—	スポーツ振興課	スポーツ都市宣言事業やスポーツ推進委員協議会、スポーツ協力員連絡会事業により、市民がスポーツを行う機会の提供に努めた。	運動を行うための機会は提供できているが、運動する必要性など、動機付けについては課題が残る。	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、運動・スポーツへの機運醸成を図り、スポーツ実施率の向上や、生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図っていく。	地方創生先行型事業	
総合型地域スポーツクラブの運営支援	P72	総合型地域スポーツクラブ会員数	234人	234人	312人	295人	290人	340人	○	スポーツ振興課	各種事業への協力や運営に関する意見交換等を行ない、安定したスポーツ活動を推進した。 また、ホームページやSNSを活用した市民への認知度向上、活動状況の提供に努めた。	事業の指導者の確保・育成を推進し、ニーズに合った事業内容を検討する必要がある。 また、小中学校や地域との連携が課題となっている。	引き続き、ホームページやSNSを活用した認知度向上、活動状況の報告等を行っている。 また、小中学校や地域等との連携を図った事業展開を行っていく。		

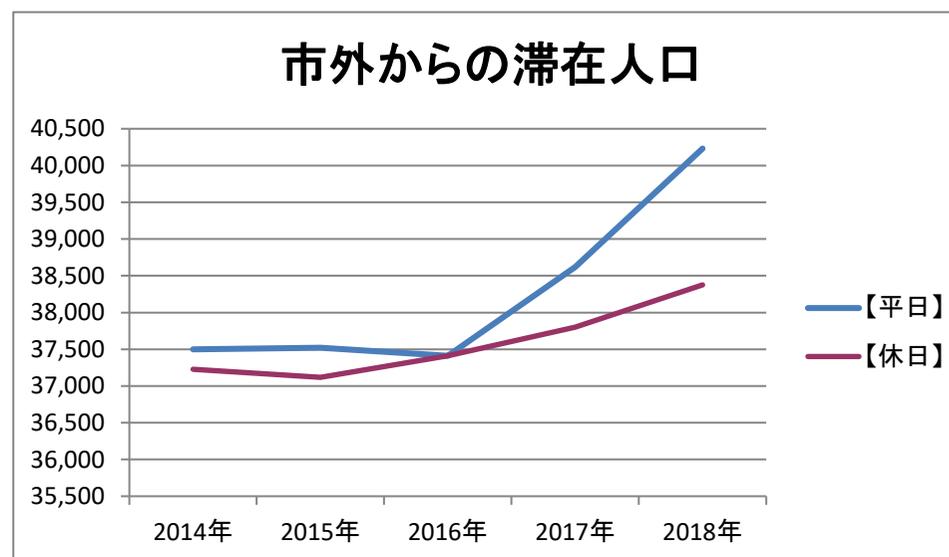
武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧(平成30年度末)
基本目標3

具体的施策	事業名称	総合戦略 掲載ページ	K P I							進捗状況	事業課	平成30年度末までの取組	目標値達成への課題	左記課題を踏まえた令和 元年度以降の予定・計画	備考
			指標	平成26年度 (現況値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)						
	スポーツ少年団の運営支援	P72	スポーツ少年団登録 団体数	—	1団体	1団体	1団体	1団体	5団体	△	スポーツ振興課	スポーツ少年団への加入 を促進するため、各団体へ の通知・説明などを行なっ た。 また、スポーツ大会への 参加や、指導者育成事業へ の参加に対する支援を行っ た。	スポーツ少年団への登録 を推進するためには、ス ポーツ少年団本部の体制強 化を図るとともに、本部が 行う事業内容について見直 しを検討する必要がある。	スポーツ少年団の対象団 体向けに、少年及び少女が 行うスポーツに関する魅力 のある講演会等を開催する ことにより、少年団への登 録を促していく。	
4 住み続けられるまちづくり		P73	在宅医療・介護連携 支援センターの設置	—	未設置	設置	設置	設置	設置	◎	高齢福祉課	平成28年度に医療機関及 び介護事業所の関係機関等 の連携を推進する「在宅医 療・介護連携支援セン ター」を設置し、在宅医 療・介護連携に関する相談 支援等運営を開始した。	センターを設置している が、活用及び在宅医療・介 護連携の推進にかかる各種 取組の実施や周知には課題 が残っている。	平成31年3月に公開した 「在宅医療・介護資源マッ プ(Web版)」の活用を推 進する。 また、地域住民への普及 啓発として、在宅療養に関 する講演会を開催する。	
	在宅医療・介護連携支援セン ターの設置	P73	センターの設置	—	未設置	設置	設置	設置	設置	◎	高齢福祉課	平成28年度に医療機関及 び介護事業所の関係機関等 の連携を推進する「在宅医 療・介護連携支援セン ター」を設置し、在宅医 療・介護連携に関する相談 支援等運営を開始した。	センターを設置している が、活用及び在宅医療・介 護連携の推進にかかる各種 取組の実施や周知には課題 が残っている。	平成31年3月に公開した 「在宅医療・介護資源マッ プ(Web版)」の活用を推 進する。 また、地域住民への普及 啓発として、在宅療養に関 する講演会を開催する。	
	生活支援コーディネーターの 配置	P73	配置人数	—	1人(第1層)	1人(第1層)	5人	5人	4人	◎	高齢福祉課	高齢者の生活支援体制整 備を推進するための第2層 協議体を4つの日常生活圏 域(地域福祉エリア)に発 足させた。	目標値を達成している が、生活支援コーディネ ーターの配置を継続すること や、協議体機能を深化させ ることには課題が残ってい る。	住民主体の助け合いのま ちづくりを推進することを 目的に各圏域で行われる協 議体の議論を踏まえた地域 資源の課題抽出と開発を進 める。	

市外からの滞在人口

【平日】	4時	10時	14時	20時	合計
2014年	1,614	13,664	16,274	5,947	37,499
2015年	1,748	13,423	16,261	6,090	37,522
2016年	1,887	13,515	16,006	6,003	37,411
2017年	2,393	13,529	16,202	6,494	38,618
2018年	2,996	13,872	16,660	6,703	40,231

【休日】	4時	10時	14時	20時	合計
2014年	1,681	10,527	17,383	7,638	37,229
2015年	1,816	10,325	17,284	7,693	37,118
2016年	1,904	10,599	17,321	7,587	37,411
2017年	2,350	10,495	17,188	7,766	37,799
2018年	2,671	10,695	16,951	8,059	38,376

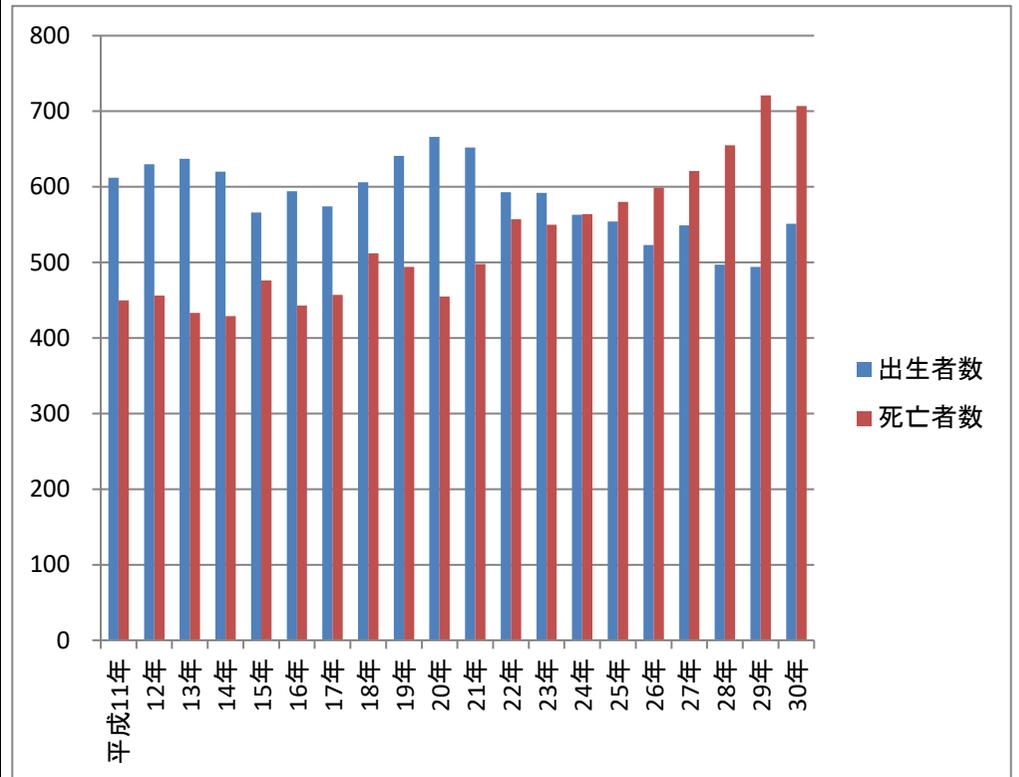


※ 2014年の数値は9月から12月までの平均値 (RESASでデータが提供されていないため)

出生者数・死亡者数の状況（武蔵村山市）

	出生者数	死亡者数	差引	人口	65歳以上	高齢化率
平成11年	612	450	162	66,235	7,801	11.8%
12年	630	456	174	65,911	8,189	12.4%
13年	637	433	204	65,871	8,645	13.1%
14年	620	429	191	65,933	9,104	13.8%
15年	566	476	90	65,938	9,730	14.8%
16年	594	443	151	65,845	10,189	15.5%
17年	574	457	117	66,226	10,698	16.2%
18年	606	512	94	67,363	11,433	17.0%
19年	641	494	147	67,886	12,094	17.8%
20年	666	455	211	68,602	12,794	18.6%
21年	652	498	154	69,491	13,538	19.5%
22年	593	557	36	70,075	14,168	20.2%
23年	592	550	42	70,469	14,515	20.6%
24年	563	564	(1)	70,770	14,993	21.2%
25年	554	580	(26)	72,101	15,746	21.8%
26年	523	599	(76)	72,169	16,487	22.8%
27年	549	621	(72)	72,092	17,226	23.9%
28年	497	655	(158)	72,243	17,784	24.6%
29年	494	721	(227)	72,238	18,288	25.3%
30年	551	707	(156)	72,489	18,589	25.6%

(住民基本台帳)

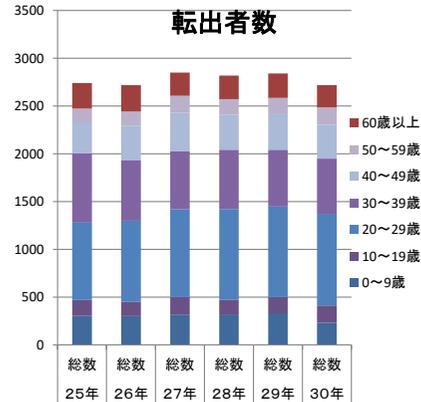
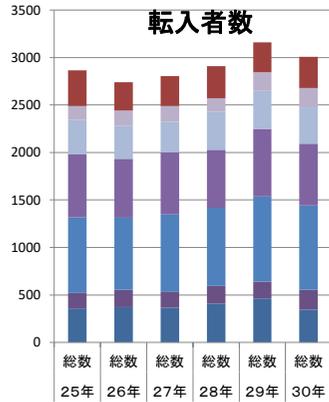


転入者数・転出者数の状況（武蔵村山市）

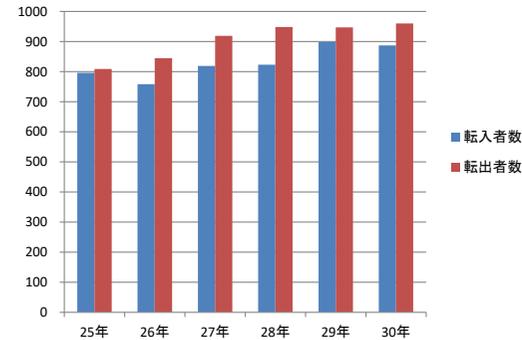
転入者数 年齢区分	25年			26年			27年			28年			29年			30年		
	総数	転入(男)	転入(女)															
0～9歳	357	197	160	370	207	163	363	193	170	409	198	211	464	239	225	343	191	152
10～19歳	164	83	81	186	87	99	167	97	70	187	95	92	174	87	87	211	95	116
20～29歳	796	427	369	758	387	371	819	412	407	823	417	406	898	429	469	887	446	441
30～39歳	666	367	299	619	339	280	653	362	291	611	324	287	714	390	324	651	359	292
40～49歳	360	205	155	345	202	143	321	187	134	399	243	156	397	246	151	384	213	171
50～59歳	148	86	62	163	92	71	165	100	65	143	78	65	199	112	87	202	115	87
60歳以上	376	163	213	299	133	166	317	133	184	338	151	187	313	150	163	331	163	168
合計	2,867	1,528	1,339	2,740	1,447	1,293	2,805	1,484	1,321	2,910	1,506	1,404	3,159	1,653	1,506	3,009	1,582	1,427

転出者数 年齢区分	25年			26年			27年			28年			29年			30年		
	総数	転出(男)	転出(女)															
0～9歳	304	153	151	302	154	148	318	161	157	319	163	156	331	171	160	231	112	119
10～19歳	166	96	70	152	86	66	183	91	92	155	87	68	170	91	79	181	93	88
20～29歳	809	410	399	845	423	422	919	460	459	948	477	471	947	474	473	960	498	462
30～39歳	726	425	301	635	357	278	605	345	260	620	338	282	595	325	270	578	308	270
40～49歳	325	203	122	361	208	153	405	245	160	366	213	153	372	236	136	353	215	138
50～59歳	143	83	60	147	88	59	177	112	65	164	94	70	170	99	71	184	107	77
60歳以上	268	112	156	277	118	159	243	106	137	247	116	131	256	128	128	231	101	130
合計	2,741	1,482	1,259	2,719	1,434	1,285	2,850	1,520	1,330	2,819	1,488	1,331	2,841	1,524	1,317	2,718	1,434	1,284

(住民基本台帳)



20代転入者数



【全体】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	2,867	2,867	2,805	2,910	3,159	3,009
転出者数	2,741	2,719	2,850	2,819	2,841	2,718
転入-転出	126	148	-45	91	318	291

【10歳未満】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	357	370	363	409	464	343
転出者数	304	302	318	319	331	211
転入-転出	53	68	45	90	133	132

【10代】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	164	186	167	187	174	211
転出者数	166	152	183	155	170	181
転入-転出	-2	34	-16	32	4	30

【20代】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	796	758	819	823	898	887
転出者数	809	845	919	948	947	960
転入-転出	-13	-87	-100	-125	-49	-73

【30代】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	666	619	653	611	714	651
転出者数	726	635	605	620	595	578
転入-転出	-60	-16	48	-9	119	73

【40代】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	360	345	321	399	397	384
転出者数	325	361	405	366	372	353
転入-転出	35	-16	-84	33	25	31

【50代】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	148	163	165	143	199	202
転出者数	143	147	177	164	170	184
転入-転出	5	16	-12	-21	29	18

【60代以上】

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
転入者数	376	299	317	338	313	331
転出者数	268	277	243	247	256	231
転入-転出	108	22	74	91	57	100